

F A T E Z I W E I

紫微命書

沈知遠、先生

太陽曆 1990-4-12 巳時

旧曆 一九九〇年三月十七

庚午 庚辰 丁未 乙巳

全5巻 ・ 盤証+解説 ・ 34図表

FateZiwei.com ・ 文化研究および娯楽参考のみ

命盤総情報

名前	沈知遠（乾造）
太陽暦	1990-4-12 巳時
旧暦	一九九〇年三月十七
四柱	庚午 庚辰 丁未 乙巳
五行局	土五局
命主身主	巨門・火星（Dou Jun 亥）
命宮	亥（太陽）
身主	酉（夫妻）

目 録

第1巻 ・ 命盤

十二宮全盤 星曜亮度・四化総表 生年四化飛布図 命宮干四化飛布図
大限排期表 雜曜分布

第2巻 ・ 格局

占断参考 格局辨識 生年四化定調 性格の底色 十二宮強弱
五行解析と補局 核心宮位主軸と代価 十二宮巡礼

第3巻 ・ 領域

事業 財運 恋愛・結婚 家庭 健康

第4巻 ・ 時間

人生曲線 現在大限詳解 未来10年逐年

第5巻 ・ アドバイス

人生アドバイス

附 録

排盤口径備考 用語小注

盤

命盤既に立てば、格局自ずから現る

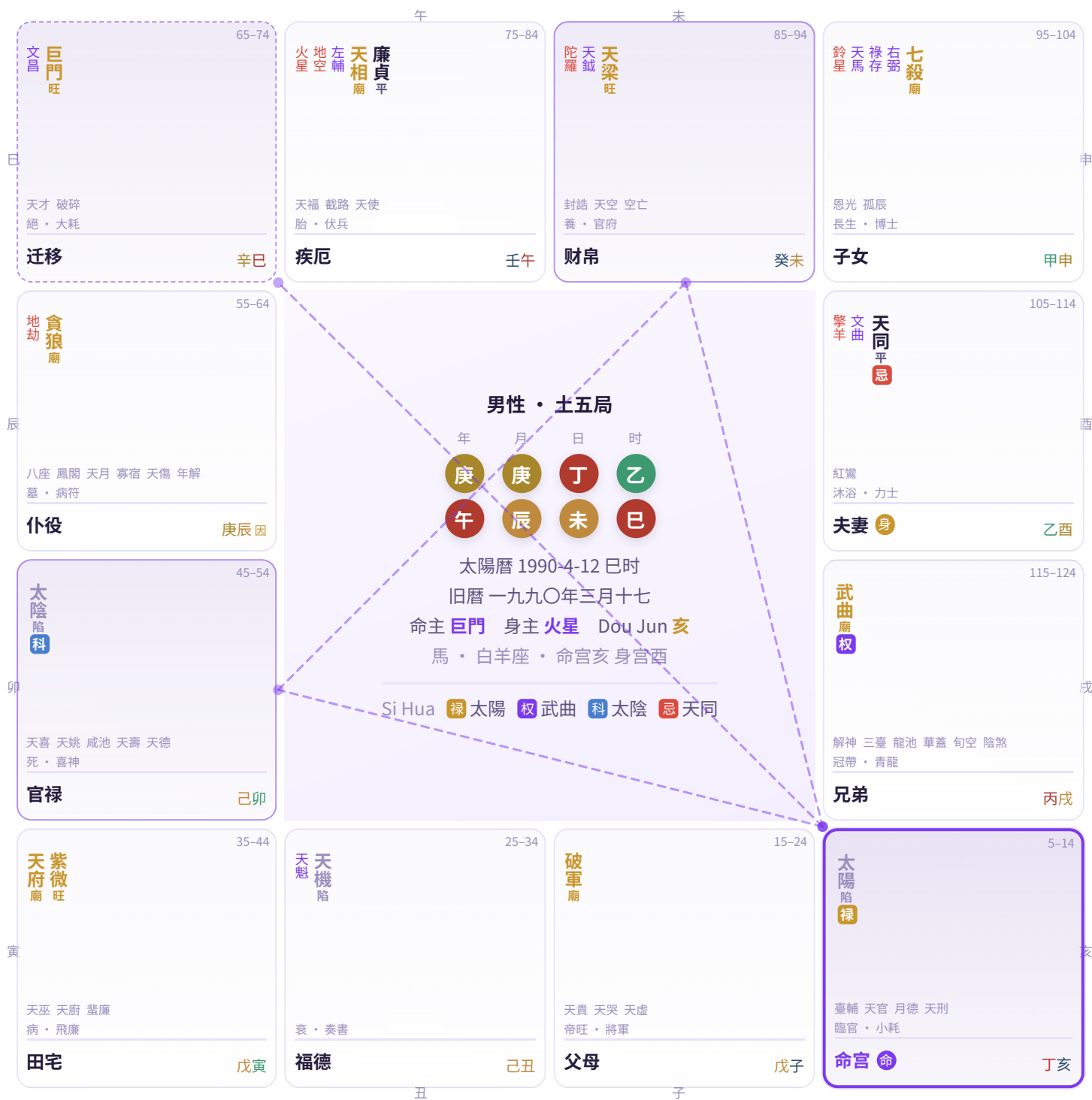


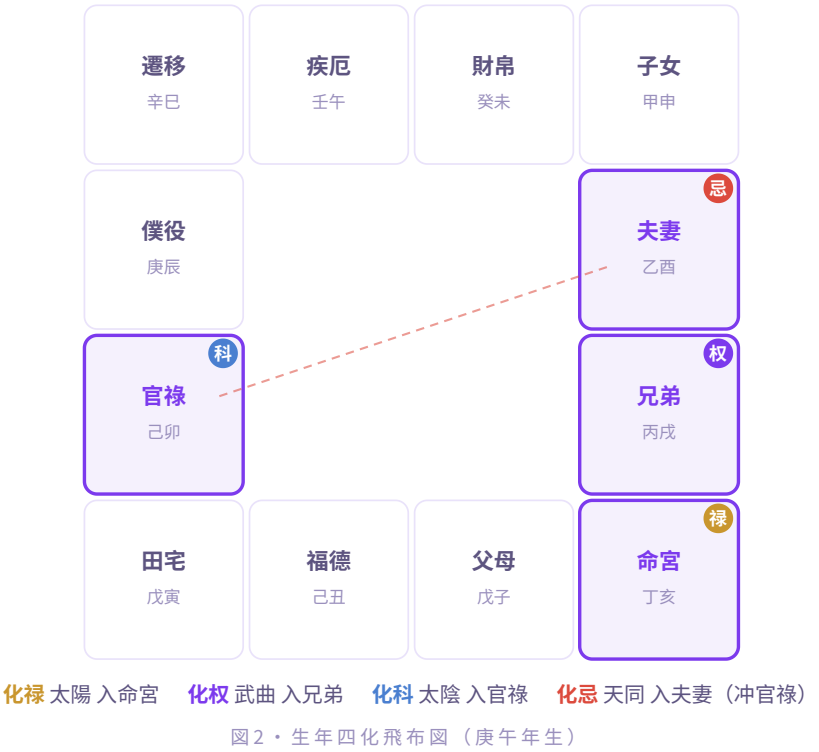
圖 1・十二宮全盤

星曜亮度四化總表

宮位	干支	主星（亮度・四化）	輔星	雜曜	大限
田宅	戊寅	紫微旺 天府廟	—	天巫 天廚 蜚廉	35-44
官祿	己卯	太陰陷化科	—	天喜 天姚 咸池 天壽 天德	45-54
僕役	庚辰	貪狼廟	地劫	八座 鳳閣 天月 寡宿 天傷 年解	55-64
遷移	辛巳	巨門旺	文昌廟	天才 破碎	65-74
疾厄	壬午	廉貞平 天相廟	左輔 地空 火星廟	天福 截路 天使	75-84
財帛	癸未	天梁旺	天鉞 陀羅廟	封誥 天空 空亡	85-94
子女	甲申	七殺廟	右弼 祿存 天馬 鈴星陷	恩光 孤辰	95-104
夫妻・身	乙酉	天同平化忌	文曲廟 擎羊陷	紅鸞	105-114
兄弟	丙戌	武曲廟化权	—	解神 三臺 龍池 華蓋 旬空 陰煞	115-124
命宮	丁亥	太陽陷化祿	—	臺輔 天官 月德 天刑	5-14
父母	戊子	破軍廟	—	天貴 天哭 天虛	15-24
福德	己丑	天機陷	天魁	—	25-34

表一・星曜亮度四化總表（大限=虛歲區間）

生年四化飛布



命宮干四化飛布 宮干飛化・飛星派判讀路徑



命宮干丁 化禄 太陰 入官祿 化权 天同 入夫妻 化科 天機 入福德 化忌 巨門 入遷移 (冲命宮)

圖3・命宮干四化飛布圖 (命宮天干丁)

大限排程

大限	数え年	宮位	当宮主星	光度
丁亥	5-14	命宮[亥]	太陽	陷
戊子	15-24	父母[子]	破軍	廟
己丑	25-34	福德[丑]	天機	陷
戊寅	35-44	田宅[寅]	紫微、天府	旺、廟
己卯	45-54	官祿[卯]	太陰	陷
庚辰	55-64	僕役[辰]	貪狼	廟
辛巳	65-74	遷移[巳]	巨門	旺
壬午	75-84	疾厄[午]	廉貞、天相	平、廟
癸未	85-94	財帛[未]	天梁	旺
甲申	95-104	子女[申]	七殺	廟
乙酉	105-114	夫妻[酉]	天同	平
丙戌	115-124	兄弟[戌]	武曲	廟

表二・大限排期表 (虚歳)

雜曜分布 桃花・文藝・刑孤・空耗

- 桃花・情緣人緣 天喜、天姚、咸池・官祿 紅鸞・夫妻
- 文藝・才華解厄 天廚・田宅 天德・官祿 鳳閣・僕役 天才・遷移 解神、龍池・兄弟 月德・命宮
- 刑孤・刑傷孤剋 寡宿・僕役 孤辰・子女 陰煞・兄弟 天刑・命宮 天哭、天虛・父母
- 空耗・空亡破耗 天傷・僕役 破碎・遷移 天使・疾厄 天空・財帛 旬空・兄弟

雜曜分布 (性質別グループ・落宮)

格局

格局を知りて、しかる後に其人を知る

命格總斷 格局成敗・五行局・身命合參

命盤既定、格局を観る。命宮に太陽が独坐して丁亥に在り、落陷ながら生年化祿を得る。是を「日入地網、光輝内斂」の象と為す。太陽は貴を主るも、化祿すれば貴氣に根あり。外面には赫々たる勢いを示さずとも、暗処に在りて人を照らす能あり。台輔・天官の輔佐を得て、早年より体制内の庇蔭を受け、或いは公門の提携を得る。然れども三方四正を観るに、遷移宮に巨門が旺地に在りて文昌と会す。「巨日拱命」の格を成す。巨門は暗曜と雖も、化氣は暗に在りて明を司る。文昌は文墨を主り、此の組合せは口才・筆耕・策劃を以て立身すべきことを示す。一生、言説と文章を以て道を開き、剛力に頼るべからず。

財帛宮には天梁が旺地に在り、天鉞・陀羅を会す。天梁は蔭星と為り、財は貴人の引薦或いは公家の資源より得らる。然れども陀羅と同纏すれば、錢財の出入りに遅延と損耗あり。短線の投機は宜しからず、長線の布石を以て時を以て空間を換うべし。

夫妻宮には天同が化忌し、文曲・擎羊・紅鸞を会す。天同は福星と雖も、化忌すれば情感の需給と婚姻の現実との間に落差を生ず。紅鸞と擎羊と同度すれば、情縁は突発性と波折を帯び易し。此の宮は身宮と為り、後天の重心は必然的に家庭関係の経営に落ち着く。

生年四化の分布は、一生の資源と課題の輪郭を描き出す。太陽化祿は命宮に入り、一生の貴人と機遇は男性の長輩・公職体系・或いは正大光明なる場より来たる。然れども太陽落陷なれば、「盛名の下に実質伴わず」を防ぐべし。化祿の吉は自ら進んで付出して初めて兌現せらる。守株待兔に墮すれば、祿は光と共に散ず。

武曲化權は兄弟宮に入る。兄弟宮は合伙・成就の位と為る。武曲は財星に化權し、團隊・同業の競争・実務の操作を以て実権を掌ることを主る。兄弟宮は丙戌に在り、武曲廟旺にして龍池・華蓋に会す。専門領域或いは技術の圈子に在りて權威を建立することを示す。然れども華蓋は孤を帯ぶ。權柄手に在りと雖も、高处の寂寞に耐えざるべからず。

太陰化科は官祿宮に入る。官祿宮は己卯に在り、太陰落陷して化科す。事業に在りては細やかな心思・協調能力・財務或いは内務の管理を以て長ず。科星は官祿に入り、名声と専門のイメージは漸次積累せらる。然れども太陰落陷なれば、事業の成就是先暗後明の過程を経るべし。急ぐべからず。

天同化忌は夫妻宮に入り、一生の課題と為る。天同は享受と協調を主るも、化忌すれば情感の表達到に障礙を生じ、或いは婚姻に於いて付出多くして報い少なし。此の忌は文曲と同宮し、感情の問題により名声を損ない或いは口舌是非を招かざるを尤も慎むべし。

四化此に至り、祿權科忌各おの其の位に歸す。資源は「名」と「權」に在り、課題は「情」と「家」に在り。

身宮は夫妻宮に坐す。後天の走向は明確に「家を以て業を立てる」或いは「縁に因りて事を成す」を指す。

命主は巨門、身主は火星。巨門は暗曜と雖も口舌の智慧を主り、火星は暴烈と雖も行動の決断を主る。両者相合すれば、此の人は心思深沉にして言詞鋭利、然れども情緒の起伏大きく、行事には「先に斬り後に奏す」の傾向あり。

土五局の人は根基厚重、耐受力強し。然れども土性滞重なれば、事に遇うて拖延し易し。火星の衝勁を借りて土を破りて出づるべし。

早運は5歳より14歳まで、丁亥大限を行う。命宮の太陽化祿が力を発し、童年・少年期には長輩の寵愛を多く得て、学業順調なり。然れども太陽落陷なれば、家庭の庇蔭の中にも亦た憂いあり。

15歳より24歳まで、戊子大限を行う。父母宮に破軍が廟旺す。此の限は家を離れて学を求め或いは早くに社会に入る。破軍は変動を主るも、廟旺なれば変動の中に反って鍛錬を得る。

25歳より34歳まで、己丑大限を行う。福德宮に天機が落陷す。此の限は心思浮動し、精神的内耗を生じ易く、事業の方向も揺れ動く。恋愛・婚姻の事も此の限に萌芽す。天機は化氣して善と為り、終に変動の中に安定を見出す能あり。

35歳より44歳まで、戊寅大限を行う。田宅宮に紫微・天府が廟旺して同守す。此の限は人生の黄金期と為る。紫府は大器を主り、田宅は基業と為る。産を置き、業を創り、根基を固むるに宜し。天府は財庫と為り、此の限に財庫漸く豊かならん。然れども蜚廉・天巫と同度すれば、小人の暗算或いは健康の憂いを防ぐべし。

45歳より54歳まで、己卯大限を行う。官祿宮に太陰化科して用を得。事業・名声は漸く佳境に入る。然れども官祿の干は己、文曲化忌を夫妻宮に遣る。此の限は事業と家庭の間に衝突を生じ易く、妥善なる調和を須つ。

晩運は55歳より、僕役宮・遷移宮の大限を行う。巨門・文昌の力が現れ、経験の伝承・著述・或いは異地に在りての発展を以て主と為す。老運に至りては反って清貴の象を見る。

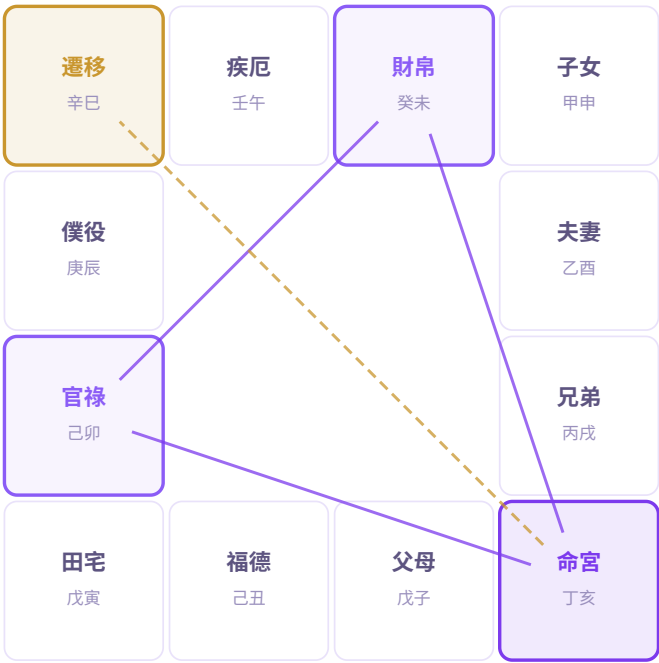
総じて此の命は、一生の主旋律を「口舌の智慧を以て身を立て、家宅の根基を以て錨と為す」と為す。太陽化祿は燈の如く前路を照らし、武曲化權は劍の如く荆棘を斬り、太陰化科は筆の如く春秋を書き、天同化忌は鏡の如く己が心を鑑みる。

最も経営すべき命門は夫妻宮の天同化忌に在り。此の忌は避け難しと雖も、文曲の才を以て撃羊の烈を化解し、情感の課題を芸術・溝通・或いは協調の専長に転化すれば、忌星は反って淬煉の石と為らん。

35歳より44歳の紫府大限は、此の生の根基を定むる關鍵と為る。当に全力を挙げて産を置き業を興し、広く善縁を結ぶべし。45歳以後、太陰化科用を得ば、専門領域に於いて名声を得ん。

然れども記すべし、太陽落陷の化祿は、務実なる行動を以て承接すべく、空談の理想に墮すべからず。天同化忌の局は、柔軟なる智慧を以て経営すべく、剛硬なる対抗を以てすべからず。

此の命は天地を驚かすことを求めず、穩中に進むを求む。家業両全、即ち是れ上乘の造化なり。



命宮在亥 三合官祿、財帛 對宮遷移

圖四・命宮三方四正構造図

この盤の格局の眼目は、まず「紫府同宮」が田宅に入ることにある。紫微は帝星、天府は庫星であり、双星が戊寅田宅宮に坐守し、さらに宮干戊により貪狼が化禄して僕役宮に入り、太陰が化権して官禄宮に入る機運を得て、財庫の根基は極めて厚い。この格の品級は中上に列せられ、ただ単に一生不動産が豊かで家宅が安泰であることを示すのみならず、命主の財富の蓄積が多くは家族の庇護や不動産購入による価値増加から来ることを暗示する。しかしながら、紫府二星はともに土に属し、寅宮の木位に坐すことで、土は木に耕され、やや滞り重たい感がある。それゆえ、その発揮は少年期ではなく、三十五年後の戊寅大限に及び、田宅宮がちょうど限運の重踏を受けて初めて「庫蔵が開かれる」効果が見られる。この格は最も不動産など実業に適し、倉儲、資源管理、家族産業などに力を発揮し、流動性の強すぎる業界に身を置くとかえって制約を感じるであろう。

次に、命宮の太陽が陷地にありながら化禄しているところ、移徙宮の巨門が旺地で、文昌が廟地にあり、かつ命宮干丁により巨門が化忌して移徙宮に入って命を衝くこと、これにより「日月反背」の局をなすが、太陽化禄によつて「故郷を出て利を得る」機縁に転じる。太陽は亥に座すは陷地で、本来は若年期に馴染みの悪い環境でもまずまずの努力、父との縁が薄いことを主る。ところが、禄が命に入り、それはあたかも暗夜に灯をともしがごとく、命主は故郷を離れた後、かえって貴人の知己を得、異郷で声名を築くことを主う。移徙宮の巨門化禄（辛巳宮干辛により巨門化禄して移徙宮に入り、文昌と同度する）は、さらには、弁舌・文章の利を添え、この格の力は後年になって漸進的に明らかとなり、特に教育、法律、廣報通関、国際貿易など「言葉で身を立てる」職業で最も発揮されやすい。しかし、巨門化忌が命宮から飛び移徙に入り、彼の「禄忌の戦い」を形成し、異郷でも偶然の機会はああるが、巷の噂話や争いごとも多いことを主う。特に言葉から災いを招かぬよう注意しなくてはならず、四十五歳から始まる己卯官禄大限の後にはさらに重要で、官禄干己により文曲化忌が夫妻に入るが、事業の紛争が婚姻関係を損なわないように警戒すべきである。

財帛宮の天梁は旺、天官・陀羅と同居する。天梁はもともと清貴の星であり、生年太陰は化科して官禄に入り、それに、命宮干丁天機化科が福德に入るが（註：命宮干丁は天機化科を需求福德宮に導入）、財源の多くが専門技能や名声から来、投機的大暴利ではなく。だから、陀羅が財帛に入るということは、財物の遅延やもつれが生じやすく、「得るのが遅い」ことを示す。また、財帛宮に陀羅が位置することは、財の運用や管理に遅滞が生じるのに注意し、財産の運用は堅実であることを求められ、他人とのパートナーシップや貸借は避けるほうが良い。

官禄宮の太陰が陷地で化科しており、天姚・咸池が同座、官禄宮が、もともと、細やかな感受性や美的才能を発揮しやすい場所であるが、陷の太陰は雲に隠れた月のように、理想が高くても実行力を欠く恐れがある。田宅宮の紫府の実業を利用し、理想を具体的な資産に置き換える必要があります。しかし、太陰が陷地にあり、官禄宮に居（註：官禄宮に太陰化科は、単独坐、天姚・咸池と同度）、職業上の潜在能力は実務的な細部や芸術的手腕にあるが、逆に、堅実な実行集中力が不足している。紫府の田宅を活用し、創造を実際に資産へと変える必要がある。

総体としては、この盤格の質は七分ほどである。命の立て方は「紫府同宮」の財庫の基礎に、依り、「太陽化禄」の離郷貴気あり、合わせ、「名を養って富を鍛る」という道を取るべきである。最大の破局は、夫妻宮の太陰の陷、であるが、主星が不在で、明代の化忌（夫妻宮干、太陰化が忌して夫妻に入った）、と同時に擎羊が同居、及官禄干己の文曲化忌が夫妻に入ること、夫妻間の衝突や嫁を取り、離別の兆しがあよ、結婚後の財務紛争も多い。したがって、三十五才から四十五才までの戊寅大限内は、田宅財庫を活性化し、財を増やし、田園を固め、調和を保ちます。また、口舌を慎しみ、関係のもつれを警戒するなら、貴きは完全である。老年期は天機科明をもって、智慧が通曉し、心境が澄明であることを、これが老年の大きな利益を表わす。

生年四化の基調

禄権科忌・生命の四つの主線

生年四化が四正の位に落ちるは、恰も四本の梁柱が命造全体の格局を支えるが如し。太陽化禄は命宮に入り、光芒身に注ぎ、一生の資源と福沢の源は人前にある——凡そ到る所、自ずと暖陽の如き感染力を帯び、人縁・名声・機会は多く能動的な開示より

得らる。命宮丁亥は水に属し、太陽は火なり。水火既済して燥ならざるの象を得たり。然れども此の禄は独り享くるの禄に非ず。命宮の三方には遷移宮の巨門旺と文昌廟、財帛宮の天梁旺を会照す。故に此の福は常に弁舌・跨界の遊歴・精神層の布施を通じて現れ出づ。愈々外に向かいて表現し、道を伝え業を授くれば、禄は愈々醇厚となる。留意すべきは、命宮丁干自ら太陰科を官禄に化し、太陽化禄の福にも亦た自己要求の文芸気質が粘着す。只だ坐して享けんと望めば、却って此の流動する恩賜に背くことになる。

武曲化権は兄弟宮に入る。権柄は同輩・手足・協力の場に落つ。兄弟宮丙戌は土に属し、武曲金は土の生を受け、財星権を得て、威ありて暴ならず。此の権は独り大権を攬るを主とせず、却ってチーム共事・資源整合の時に自然と頭角を現し、衆人の頼る中堅となる。三方四正に於いて、疾厄宮の廉貞天相と左輔火星来たり会し、僕役宮の貪狼と地劫相對峙す——助力と破耗併存す。故に権を掌る道は原則ありて而も弾性を失わず、下には寛厚に、上には卑屈ならず。斯くして初めて此の権能を実打実の決断力と化し得て、徒に人事の葛藤を増すことなきなり。

太陰化科は官禄宮に入る。名声と貴人の通道は事業の脈絡の中に暗かに蔵る。官禄宮己卯に落ちて陷くる太陰は生年化科の潤いを得、夜月が書案を照らすが如し。宜しく婉約繊細なる専門技能を以て身を立て、文化・コンサルティング・企画・女性関連産業に従事すれば、特に科名の貴を顕わすを得べし。三方四正には夫妻宮の天同化忌相衝くを見る。事業と婚姻は互いに鏡と為る——愈々親しき人こそ、汝の心性を試す考官と成り易し。貴人は遠きに在らず、多くは懇意の師長・同僚・或いは伴侶の引き合わせに由る。然れども化科の貴は真才実学を底とすべく、虚名浮利は却って口舌を招かん。

天同化忌は夫妻宮に入り、官禄宮を衝き、一生最も深き課業なり。天同は本と福星なるも、化忌後は福氣濁りに転じ、親密なる関係は波折・溝通不暢・或いは情の字に耗神すること多し。連れ添いて事業宮も衝かれ、心思は両処に牽かる。夫妻宮乙酉には文曲擎羊同じく纏わる。忌星が擎羊に逢えば、情傷は往々にして言語の利刃を帯びたる記憶を伴う。幸いに文曲は天同を助けて才芸を以て化解す。情愁を文字・音律に傾け得れば、化忌の痛みは却って創作の養分と成る。此の忌は無縁を主とせず、極大の忍耐を以て関係を営むを主とす。晩婚・聚少離多・或いは互いに空間を保つ者は、却って其の鋒芒を避け得べし。

四条の主線、此に貫通す：太陽化禄は表と為り、彼に慷慨世に赴くを教う；武曲化権は裏と為り、彼に鉄腕協力を練る；太陰化科は翼と為り、彼に温潤名を立つるを助く；天同化忌は錨と為り、彼が順境に因りて情債を忘れざるを繋ぎ留む。禄権科忌の四気流転し、一生順境の時にも暗湧あり、困頓の処にも又た生機を蔵す。化忌の解は世を避くるに在らず、直面するに在り——情感の挫け、事業の阻まる毎に、太陽禄の初心に帰り、武曲権の担当に帰り、太陰科の涵養に帰れば、忌星は踏み石より磨刀石に化せん。又た田宅宮に紫微天府坐鎮し、家庭と根基は終に最後の堡壘たり。多く家に帰り、祖蔭を重んじ、祖産を守れば、化忌の官方を衝くを半ば抵るを得べし。

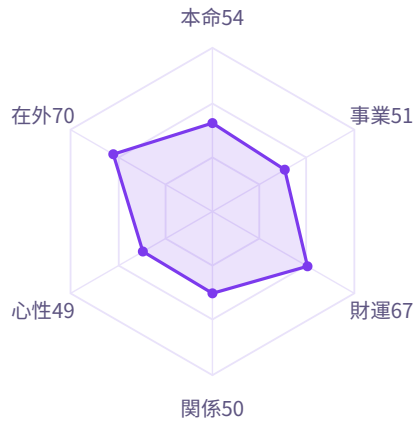
性格の深層 命宮 × 福德 × 輔星

命宮に太陽が陷落して化禄し、さらに巨門が遷移宮で化禄して呼応し合う——あなたという人物は、外に現れる気質と内なる真実との間に、生まれつき一枚の紗が隔たっている。太陽が陷地にあるのは本来、光芒を収めることを意味するが、化禄がそれに尽きせぬ動力を与えている——表向きは必ずしも群衆の中で最も目立つ存在ではなく、むしろ沈黙を好み寡黙な趣きすらあるが、骨の髄まで消えぬ熱情を宿し、事に遇えば人を助け、道を照らそうとする。命宮にある台輔・天官・月徳・天刑は、この熱情に秩序感と原則性を与えている。あなたの助けは無原則な「お人好し」ではなく、心の中に自ずと一つの秤があり、その分銅は「理」の字、秤竿は「義」の字である。しかし天刑が同宮することにより、原則を貫く際に硬直的になりやすく、自己懲罰的な厳しさすら帯びる——他人の過ちには寛容でいられても、自分自身の些細な失敗を長く引きずってしまう。「外は柔らかく内は剛」というこの落差は、初対面の者にあなたを話しやすい人物と誤解させがちで、深く交わって初めて、誰よりも頑固であることに気づかれる。

福德宮の天機陷落に天魁が加わるのは、あなたの精神的な基調の核心である。天機は思慮を司り、陷落すれば思慮が深くなり過ぎ、物事をこじらせやすい。天魁は貴人との縁をもたらすが、内なる波立ちを鎮めることはできない。あなたが内面で本当に必要としているのは、世俗的な成功や喝采ではなく、「腑に落ちた」という清明な感覚である——何事も筋道を立て、脈絡を見通して初めて安心できる。しかし天機陷落の特質により、複雑な局面に直面すると繰り返し推敲し、決断を躊躇しやすい。特に感情や人間関係の曖昧な領域では、理性的な分析が機能せず、感情の反芻に陥りがちである。官禄宮の太陰陷落化科に、天姚・咸池が重なる——あなたは仕事において繊細さと美を追求するが、太陰陷落によって「完璧」への執念が強くなり過ぎ、細部が期待に届かないだけで自己否定に陥る。この精神的基調により、あなたの決断様式は「先に考え抜いてから行動する」傾向があるが、ひとたび考え抜けば行動力は極めて強く、太陽化祿の爆発力がその瞬間にすべて解放される。

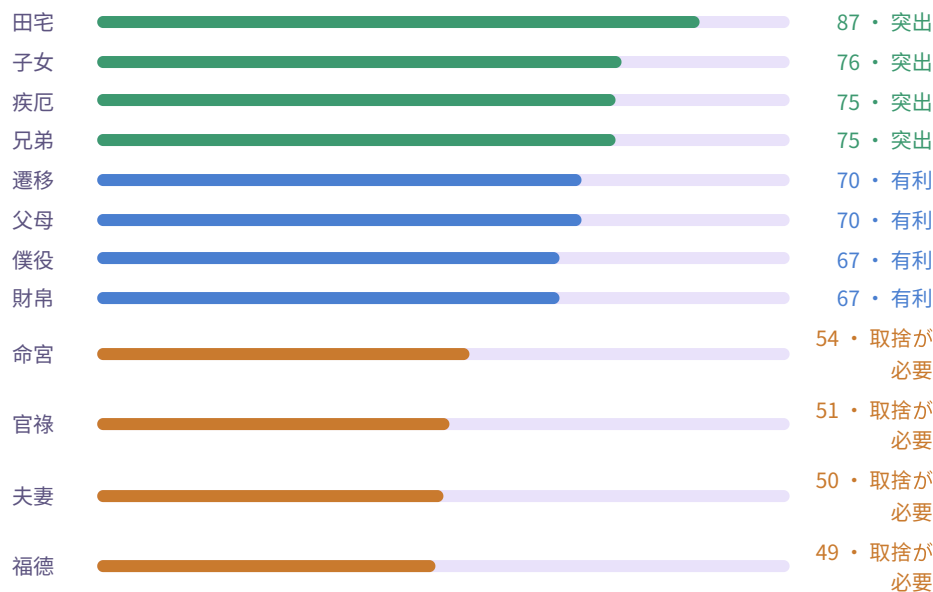
対人関係とプレッシャー下での振る舞いは、夫妻宮と僕役宮の連動を見る必要がある。夫妻宮の天同化忌、文曲の廟旺、擎羊の陷落、紅鸞の同宮——あなたは親密な関係において「情を深く入れ過ぎて、かえって自分を傷つける」傾向が極めて強い。天同化忌により、相手の感情の揺れを敏感なまでに気かけ、文曲が言葉の繊細さと婉曲さをさらに強めるが、擎羊陷落によって、衝突の際には耐えに耐えて内傷を負うか、あるいは突然爆発するかの二択になり、中間の緩衝が欠ける。僕役宮の貪狼廟旺に地劫が重なる——交友関係は広く雑多で、友人には寛大で熱心に尽くすが、人を見る目が定まらず、過剰に尽くして失望することがしばしばある。遷移宮の巨門化祿、文昌廟旺は、外でのあなたの強みである——話に筋道が通り、人を納得させる力がある。しかし巨門化祿により、プレッシャー下では「話し過ぎて」しまい、言葉で内なる不安を覆い隠そうとする。あなたが最も恐れるのは、「説明し難く、整理のつかない」状況、特に誤解されても弁明の機会がない時であり、太陽陷落の無力感が倍増する。あなたが最も順調に進めるのは、「明確な目標を持ち、自分のペースで一歩ずつ推し進める」リズムである。太陰化科が官禄宮にあることで、あなたは混乱の中で臨機応変に動くより、安定した環境で細部を磨き上げることに適している。

性格の中で最も警戒すべき「過ぎ」の点は、太陽陷落化祿と天同化忌の挟撃にある。太陽陷落化祿は、「過剰に与えていることに気づかない」状態に陥りやすく、人を照らすことが自分の価値だと思い込み、自身のエネルギーの消耗を顧みない。天同化忌は夫妻宮にあり、感情面で「返報への依存が過剰」になり、与えたものが対等に返ってこない、自己懷疑や怨みに陥る。疾厄宮の廉貞平、天相廟、左輔・地空・火星廟の同度——身体的基础はまずまずであるが、火星廟旺は感情が苛立ちやすいことを示し、地空はプレッシャーが大きい時に「突然の離脱」を起こし、冷淡さで自分を守ることを示す。現在の大限は田宅宮に至り、紫微・天府が坐守している——まさにあなたが锋芒を収め、基盤を整える時である。もし与える前に「これは人を照らしているのか、それとも自分の執念を照らしているのか」と自問できるようになれば、あなたの太陽は真に光を放ち、自らを焼くことはないだろう。



図五・性格六次元（命宮三方四正の強弱・発見的参考値）

宮位強弱 参考スコア・自然な強みと補強ポイント



図六・十二宮強弱ランキング（参考スコア 0-100、伝統指標ではありません；低い＝その領域を意識的に強化すべき）

五行解析 五行偏枯・補局方向

命盤三方四正之中，土行獨得三分，金、水、火各佔一分，木行全然不見。土旺而木缺，格局已然分明。土主信、主承載，也主遲重，這使你行事有根基、應承之事必會落實，但同時也讓決策帶上一種「先看穩不穩，再看快不快」的慣性。

財帛宮天梁屬土，田宅宮紫微、天府雙土星坐鎮，更兼命宮太陽化祿落陷於水地，土氣雖旺卻不得火生，故你的穩重並非出於熱忱，而是一種冷調的責任感——你未必享受承擔，但職責落到肩上便不會卸下。決斷上，你傾向多方權衡後才動手，尤其涉及錢財與家宅之事，寧可慢三分，不願錯一步；人際上，你對熟人重然諾，對生人卻帶一層天然的審視，不輕易交心。

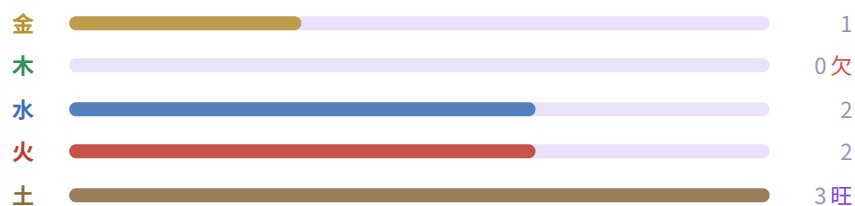
木行全缺，是這盤中最需正視的短板。木主生發、主條達，也主肝膽與筋絡。五行缺木者，遇事易缺一股「向上突破」的銳氣，往往在機會面前想得周全，卻少了拍板就衝的勁頭；長期壓抑時，容易胸悶、肩頸僵緊，肝氣不舒的徵兆多於常人。

疾厄宮廉貞、天相雙火土，火星廟旺，需留意肝膽與睡眠節律——你作息若長期紊亂，恢復速度會明顯慢於同齡人。水行雖僅一分，但遷移宮巨門屬水、文昌屬金，金生水，外出行走反而能補足內在的枯竭感；火行一分在疾厄，主心血，佐以左輔、地空，情緒起伏時心臟易有負擔，宜常做有氧以緩解。

土五局的命造，本就以土為骨，你的性格與命局同頻：重承諾、能守成、善理家宅田產之事。但五行貴在流通，土多則滯，木缺則無以疏土，所以補木是全局的鑰匙。方位上，東方為木之正位，日常可多向東行——晨間散步、辦公桌朝東皆宜；顏色取青綠，衣著配飾、案頭擺件均可入此色；物件上，養一盆枝葉舒展的綠植（如發財樹、琴葉榕），或佩戴木質手串，皆是以形補氣之法。

水行偏弱，北方為水地，次吉之位，可於家中北方置一杯清水或魚缸小景，助金水相生；火行不弱，南方位宜保持明亮，一盞暖光檯燈即可引火生土，不必過旺，過旺反灼土。金行一分，西方位可放金屬質感的文具或銅器，助文昌之氣流通。

五行補局屬民俗參考，不構成決策建議。



図七・五行割合パー（命宮三方四正星曜五行・土局）

補木

命局に欠ける

おすすめ 東方

木は生気・成長・健康を司る。木を補うと生命力・学業・健康運が高まる。

物品：Green potted plants, Bamboo ornament, Wood decor, Teal wall art | 色：Green, Teal, Light blue | 植物：Lucky bamboo, Pothos, Money tree, Rubber plant

五行補局の提案（民俗的参考であり、不動産・投資助言ではありません）・本命吉位 北方（副：西北）

核心宮位・主軸と代償

六宮双欄・あなたのテコと学び

本命 命宮 太陽化禄 主軸：発光・奉仕、万人を庇護 代償：自らを燃やす、虚名に苦しむ	事業 官禄 太陰化科 主軸：繊細・蓄え・内に秀でる 代償：内耗・多憂・受け身
財運 財帛 天梁 主軸：庇護・原則・厄払い 代償：説教くさく教条主義	関係 夫妻 天同化忌 主軸：調和・滋養・享福 代償：快適圏に留まり、衝突を回避
心性 福德 天機 主軸：思考、謀略、応変 代償：考えすぎ、実行に移せず	在外 遷移 巨門 主軸：弁才・探究・言い切る 代償：口論・猜疑心

核心宮位・主軸と代償

十二宮巡禮

毎宮一節・盤證→斷語→詳解

太陽 禄

臺輔 天官 月德 天刑 ・ 三方四正：対宮 遷移 ・ 三合 官禄、財帛

太陽陷落化禄，晚發光芒，貴人暗助。

命宮に太陽が坐し、化禄して陷地に在り、身主は火星で疾厄宮に在る。命主は巨門で遷移宮に在り、「巨日」格局の変体を成す。太陽が亥に在って陷地となり、光芒は収斂し、命主の早年は才華が顕れ難く、歳月の鍊磨を経て初めて光を放つことを象徴する。然るに生年化禄が命宮に入り、太陽の吉は陷地に在りながらも尚榮え、一生の間、長輩・上司・男性の貴人に提携を得ることが多く、且つ貴人は常に陰に在って助け、顕赫として張り顕れる者に非ず。台輔・天官は其の社会地位と官貴の気質を増し、月解は凶厄を化解し、天刑は自律と原則を帯び、命主の行事は度有りて、矩を踰えず。然るに太陽が陷地に在りて天刑に遇えば、亦た早年或いは健康面に於いて「磨礪」或いは「試練」を経ることを主り、方めて成長を得る。

三方四正に於いて、遷移宮に巨門が旺地に在り、文昌が廟地に在る。巨門は口才・思弁を主り、文昌は文書・才芸を主る。命主は外出して発展し、人交際に於いて言辞に長じ、学識有り。但し巨門は亦た是非を主り、口舌の争いを防ぐを要す。官禄宮に太陰が陷地に在りて化科し、財帛宮に天梁が旺地に在る。太陰の化科は柔を以て剛を制することを主り、事業に於いて繊細な心思と文芸の才に依りて名を得る。然るに太陰が陷地に在れば、事業の初期には才あれども遇わずと感じ易く、時運を待つを要す。天梁が財帛宮に旺地に在れば、財源は穩固にして、多くは長輩或いは蔭庇に由りて来たる。但し天梁は亦た「清高」の性を有し、財を軽んじて蓄えず。対宮の巨門が化忌し（命宮の丁干に由りて飛化）、命宮を冲射す。此れ乃ち命盤の關鍵なり。命宮の丁干により巨門化忌が遷移宮に入り、命宮を冲撃し、「巨門忌」の衝撃を成す。命主は一生の間、口舌の是非・小人の暗算を警戒すべく、特に遠行・遷移・対外事務に於いて、言葉に因りて禍を招き易し。化解の道は「言を謹み行を慎む」に在り、文昌の才学を以て溝通の技巧を増し、是非を助力に化す。

生年四化に於いて、太陽化禄は命宮に入り、武曲化権は兄弟宮に在り、太陰化科は官禄宮に在り、天同化忌は夫妻宮に在る。太陽化禄は命宮の核心たる優勢なり。陷地に在り雖も、禄は陷を解く能く、命主は一生の間、資源・人縁に乏しからず。唯だ自ら「打開」し、機会を争取するを要す。天同化忌は夫妻宮に在り、文曲・擎羊と同宮す。感情に於いては波折を生じ易く、多くは晩婚或いは聚少離多を宜しとし、包容を以て忌を化すを要す。現在の大限は田宅宮（戊寅、35-44歳）に至り、紫微・天府が坐守す。大限の官禄宮の干己により武曲化禄が兄弟宮に入り、貪狼化権が僕役宮に入り、天梁化科が財帛宮に入り、文曲化忌が夫妻宮に入る。此の十年、事業に於いては兄弟・友人の助力大なり。但し夫妻宮の文曲忌が引動され、感情・合作関係は変動を生じ易く、家庭と事業の均衡を図るを要す。命宮の太陽化禄は田宅大限に在り、遷移宮の巨門化禄（大限の遷移宮の干辛に由りて）に引動され、巨門化禄は遷移宮に入り、太陽化権は命宮に入り、文昌化忌は遷移宮に入る。此の大限は外出・進修に宜し。但し文書・契約の紛糾を防ぐを要す。総体として言えば、命宮の太陽化禄は人生の根基たり。陷地に在り雖も、「晩発」の象有り。35歳後に運勢は漸く開け、45歳後に官禄宮の太陰化科が運を得て、事業・名声は期す可し。早年（5-14歳、丁亥限）に太陽化禄が命に在り、長輩の寵愛を得。但し天刑は管教の嚴格を主り、成長の過程に小恙或いは規律の制約有るも、後の自律の基礎を築く。

武曲 権

解神 三臺 龍池 華蓋 旬空 陰煞 ・ 三方四正: 対宮 僕役 ・ 三合 田宅、疾厄

武曲化權掌兄弟，剛強義氣，財權相濟。

兄弟宮に武曲が廟旺で坐し、生年化權に逢う。權星が廟に入れば、兄弟の中に権柄を握り、魄力ある者がいることを主る。また、あなたが同輩の手足の中で常に主導的な立場に立ち、あるいは多くの責任を負うことを暗示する。武曲は將星にして、性剛く決斷力に富む。兄弟間の付き合いは多くが率直で、義理を重んじるが温かい言葉は少ない。化權はさらにその威勢を増し、兄弟の中に事業を成し遂げ、性格の強い者がいるかもしれない。互いに刺激し合う一方で、競い合いも生じやすい。この宮の干丙により天同が化祿して夫妻宮に入り、化忌が疾厄宮に入る。兄弟の縁は婚姻と健康の間に動き、手足の事が間接的に家宅の安寧に影響を及ぼすことがある。

輔曜については、解神は災いを消し厄を解くことを主り、三台・龍池はその貴氣と才藝を増す。華蓋は孤高の性を帶び、陰煞は隱微な是非を藏す。解神と華蓋が併せ見えると、兄弟間で互いに矛盾を解消できるが、華蓋の孤性により互いの心にはそれぞれ保留があり、完全に心を開くことは難しい。陰煞は手足の間に暗に猜疑や小人の弄りがあることを防ぐよう示す。特に財産分配に関わる時である。三方四正を見ると、對宮の僕役宮には貪狼が廟で地劫に坐す。朋友との交際には機變と破耗が多く、兄弟と友人の間の利益の絡み合いを引き起こすことがある。三合の田宅宮には紫微・天府の雙帝星が坐鎮し、家宅の基盤は厚く、祖蔭は手足にまで及ぶ。疾厄宮には廉貞・天相・左輔・地空・火星があり、兄弟は健康や事業の奔走に心を勞する。火星の烈しさにより、兄弟の中に性情急躁で衝突を起こしやすい者がいるかもしれない。

生年の武曲化權が兄弟宮に入り、この宮の剛健な基調を既に定めている。そして命宮の丁干により太陰が化祿して官禄宮に入り、巨門が化忌して遷移宮に入り命を衝く。兄弟宮の丙干により天同が化忌して疾厄宮に入る。雙重の忌星が牽き動かすことで、兄弟の事があなたの身心の勞頓や健康の隱憂を引き起こしやすい。化解の道は文曲・天相の柔をもって武曲の剛を濟うことにあり、事に遇えば兄弟宮の三方の紫微・天府の貴人を多く借り、手足とは金を明算し情を暗に存し、財と權を混同せぬことを忌む。この宮の行く大限は115歳から124歳に及び、晩年は兄弟の縁が淡く、その時武曲化權の威は持重に轉じる。家宅の紫微・天府を依り所とし、天和を養い、再び頭を出すことをせぬがよい。

天同化忌身宮顯，情路多磨宜晚成。

夫妻宮は乙酉に坐し、天同平の化忌が身宮の主星となる。この星は本来温和で情緒を重んじるが、化忌により福蔭は絡み合いへと変わり、感情面では「与える多くして報われ少なし」の慨を抱きやすく、あるいは早年の姻縁が現実の圧力に縛られ、晩婚か、または試練を経て初めて安寧を得る傾向がある。天同が陷地に在れば、情緒的な欲求が高く、伴侶への依存も深い。化忌はさらにこの依存を無形の枷と化し、敏感さや思い煩いゆえに自ら隙を生じさせぬよう戒めねばならない。輔星の文曲は廟に在りて才情と浪漫の想像力を添えるが、擎羊が陷して同宮に在れば、情路に鋭さが加わり、争いの折には言葉に棘が宿りやすい。紅鸞は桃花を主ると雖も、一時の激情により縁を誤らぬよう慎むべきである。

三方四正を觀るに、官祿宮の太陰は化科を帶び、配偶者或いは自身が事業上に文雅の氣質を備える。然れども夫妻宮の干乙により太陰は化忌して官祿を衝き、婚姻と事業が互いに牽引されやすいことを示す。仕事の圧力や遅い帰宅がしばしば感情の暗礁となり、福德宮の天機は陷して思慮が変わりやすく、感情への要求が自ら矛盾し、些事に繰り返して悩んで情分を磨り減らしやすい。遷移宮の巨門は旺に在りて外での人際が活発だが、命宮の干丁により巨門が化忌して命を衝くゆえ、言辞の誤解や外界の雑言が夫妻の信頼を損なうこともあり得る。生年の天同化忌はもとより情縁の波乱を主どるが、官祿宮の干己により文曲が化忌して夫妻宮に入れば、書類や口舌の煩が増し、婚前の約定や婚后の財務・名分の問題に留意せねばならぬ。

化解の方途として、天同の忌は「思いやり」を薬とし、敏感を繊細さへ転じ、依存を共通の趣味へと変えるべきである。擎羊の鋭さは、文曲の雅をもって調和し、芸術や旅など共通の話題を育むのが良い。また夫妻宮の干乙による太陰化忌が官祿を衝くゆえ、必ず事業と家庭の境界を明確にし、職場の感情を家に持ち込まぬことである。良縁を实らせる条件は、遷移宮の干辛により巨門が化祿して遷移に入り、太陽が化権して命宮に入ることに在る。即ち自ら外へ社交を広げ、進修・出張・異地の機会を通じて相手と出会い、自身が責任感と開拓の力を示してこそ、忌を吉に転じ得るのである。

大限に就いては、現在は戊寅の田宅限（35—44歳）に行く。田宅宮に紫微天府が在り、家庭の基盤は漸く固まる。然れども夫妻宮は大限官祿宮の己卯太陰化科に引かれ、この十年の感情は事業の成就により光を増す一方、太陰の化忌が官祿に入りて暗に疎遠を生じやすい。45—54歳の己卯官祿限に至れば、夫妻宮の对宮に当たり、太陰化科が生年の科に逢う。婚姻関係は事業の絶頂期に試練を受け、多忙のゆえに伴侶の気持ちを顧みぬことを防がねばならぬ。75—84歳の辛巳遷移限には、遷移宮の巨門が化祿し、文昌が化忌する。晩年の遠行や移住の際に感情の変数が生じやすく、早めの対話が肝要である。

総じて、この宮は吉凶相半ばし、身宮ここに在れば、婚姻はまさに人生の重要課題である。ただ柔を以て剛に勝ち、文を以て武を制すれば、忌を転じて縁と為し得るのである。

七殺 右弼 祿存 天馬 鈴星 陷

恩光 孤辰 ・ 三方四正：对宮 田宅 ・ 三合 父母、僕役

七殺坐子女，子息剛強有緣，但晚得為佳。

子女宮七殺独坐、子女の性格は剛毅で独立心旺盛。統率力・カリスマ性を備えるが、しつけには骨が折れる。七殺は將星に当たり、子女は開拓精神に富み、成年後は業績を挙げやすい。しかし幼少期は反抗的で、親子関係は柔をもって剛を制す姿勢が肝要である。輔星の右弼・祿存が同宮し、子女は助力に恵まれ、経済的にも子女の支えを得られる。天馬も同度し、子女は成年後、外地へ赴いたり、遠行が多くなる傾向がある。鈴星が陷の位置にあり、子女の短気や些細なことでの衝突に注意が必要だが、その影響は限定的である。

三方四正では、对宮の田宅宮に紫微天府が在り、家運の基盤が固く、子女の成長環境が良好であることを示す。紫微天府は七殺の煞気を制し、子女の大成をさらに後押しする。三合の父母宮に破軍が在り、子女と年長者との縁が薄く、世代を超えた養育が必要になるかもしれない。僕役宮には貪狼が在り、子女の交友関係は広いが、友人からの影響に注意を要する。総じて、七殺が紫微天府および祿存・右弼の照会を受けるため、子女との縁は決して弱くない。ただし、早年は波乱があり、中年以後に子女が次第に大成する。

四化の面では、命宮の丁干が化祿を官祿宮に入れ、化忌を遷移宮に入れる。命主は事業に奔走するが、子女宮には四化の動きがなく、子女に関わる事柄は比較的平穏である。遷移宮の辛干が化祿を子女宮に入れ、化忌を遷移宮に入れる。子女は外地で発展するが、命主は自身が外出する際、子女への気掛かりが生じやすい。財帛宮の癸干は化祿を父母宮に入れ、化忌を僕役宮に入れる。子女の財務は年長者と関係が深い、友人との間で金銭のもつれが生じやすい。

大限に関しては、95～104歳で子女宮の大限を迎える。この時期、子女宮の七殺が祿存・右弼と逢い、晩年は子女の世話になることを示す。ただし、七殺の大限では突発的な健康問題、特に心肺系に注意が必要である。この時期は子女との交流を積極的に持つことで、福寿が増すとされる。早年の25～34歳では、福德宮の天機大限を迎え、子女との縁はやや薄い。この時期に子を授かる場合は、より丁寧な養育が求められる。

天梁守財清貴格，陀羅遲發忌投機。

財帛宮に天梁が旺で守り、主星は蔭星に当たる。財源は多くが長輩の引き立て、公職の俸祿、或いは安定した行業に由り、投機による暴利ではない。天梁旺相なれば、理財は穩健・保守に傾き、利より名を重んじ、「清官」の風あり。金銭は多くが親友への救済や信用の蓄積に用いられる。然れども天梁は本質として孤克の星、財帛宮に見ゆれば、金銭の往來に是非を伴い易く、義憤や保証により財を損なわざるよう戒むべし。輔星の天鉞は貴人星にして、女性の貴人、或いは體制内の人脈の紹介により財源を得るを示す。陀羅の廟は拖延・反覆を主り、金銭の入りは「慢工出細活」に應ず。急ぎで成さんと欲すれば、却って波折を生じ易し。雜曜の封誥は名譽を主り、天空・空亡は財の來たり去るをして、大富を聚め難し。不動産或いは長期の貯蓄を以て財を蓄うるの道とすべきなり。

三方四正に於いて、對宮の福德宮に天機陷るは、思慮過重を主り、屢々過度の算段により好機を失い、或いは穩を求めて高収益の機会を棄つ。命宮の太陽陷りて化祿すは、慷慨を主ると雖も、太陽落陷なれば財源の基盤穩かならず、過度の公益熱心や人助けにより財を破らざるよう戒むべし。官祿宮の太陰陷りて化科すは、事業に於いて專業の技量或いは裏方の策劃にて名を得ると雖も、太陰落陷なれば収入の起伏大きく、主業のみに倚るべからず。副業或いは投資理財を以て不足を補うに宜し。生年四化に於いて、太陰化科官祿に入るは、財帛の得は事業の名聲と連なり、專業の形象を以て財を取るべきを示す。天同化忌夫妻に入るは、配偶者或いは合夥人の金銭に對する態度は保守にて、家庭の出費或いは合夥の財務問題により摩擦を生じ易し。

宮干の飛化に就き、財帛宮干癸、破軍化祿父母に入るは、金銭は多くが孝親或いは祖産の購入に用いられ、父母或いは長輩が財源の助力たるを示す。巨門化權遷移に入るは、外に出でて財を求め、或いは異地にて發展する時、口才・專業の談判を以て財を得ると雖も、巨門化權は是非をも主り、言により咎めを受けざるよう戒むべし。太陰化科官祿に入るは、生年の太陰化科と重なり、事業に於いて細やかな策劃を以て財を得るの象を強む。貪狼化忌僕役に入るは、朋友・下屬・合作夥伴により財を損ない易く、合夥の對象は慎みて選び、貸借・保証を避くべし。

化解と兌現：陀羅は遲發を主り、時間を以て空間に換えるに宜し。中年の後、財庫漸く豊かならん。天空・空亡は虛花を主り、投機の心を戒め、高リスクの金融商品に手を出すべからず。貪狼化忌僕役に入るは、交友は目を以て人を識り、金銭の往來は白紙黒字を以て憑とすべし。天鉞の貴人、女性の長輩或いは體制内の人と多く交わり、財源は多く此れに由りて動かさる。

大限の提示：當に戊寅大限（35-44歳）を行く。田宅宮に紫微天府、置産の運良し。此の限に趁いて家を購い、或いは不動産に投資すべし。但し田宅宮干戊、貪狼化忌僕役に入るは、合作或いは朋友の拖累により房産を損なわざるよう戒むべし。45-54歳己卯大限に至れば、官祿宮太陰化科、事業の名聲上り、財帛宮の天梁、大限官祿の太陰化科の引動を受け、專業の聲譽を以て財を帶ぶを主る。但し大限官祿干己、文曲化忌夫妻に入るは、配偶者或いは合夥關係により事業の収入に影響せざるよう戒め、財務の獨立を事前に規劃すべし。

疾厄廉相火鈴夾，氣血暗耗宜早防。

疾厄宮に廉貞平・天相廟が坐し、双星が命垣に入る。そもそも身体の基盤は弱くないことを示すが、廉貞は陰火に属し、平位に落ちて火勢が純ならず、天相は廟に雖も印星である。両者が同宮する場合、多くは心血管・血液循環・内分泌系統の症に应ずる。廉貞はまた次桃花であり、暗疾や長引いて治りにくい病が多い。特に情緒的なストレスが生理的な病痛に転化することを防ぐ必要がある。火星廟が疾厄を守り、火気がやや旺盛で、体質は燥熱に傾き、炎症・上火・外傷による出血などのことが起こりやすい。左輔・地空が同度し、左輔は助けの象があり、病に遭えば貴人に恵まれて良医を紹介されやすいが、地空は空劫の列に属し、氣血が虚しやすく、病後の回復が遅くなりがちで、医薬の効果にも「空」の感があるため、忍耐強く養生する必要がある。雜曜の天福は福星であり、病痛の苦しみを和らげる。截路・天使は停滞と反復の象を帯び、小さな病が慢性化しやすく、旧疾の再発を防がねばならない。

三方四正においては、对宮の父母宮に破軍廟が疾厄を直沖する。破軍は破壊・消耗を主り、疾厄に沖入すれば、外傷・手術・突発的な急症を最も忌み、特に骨骼・腎臓系統に留意すべきである。破軍はまた耗星であり、病中の体力消耗が速く、回復期には十分な休息が特に必要である。三合の兄弟宮に武曲廟化権があり、武曲は金に属し、肺経と呼吸系統を主る。化権はその剛烈さを増し、肺気が亢進しやすく、気管の敏感や咳が治りにくいことが見られる。田宅宮には紫微天府廟旺が来合し、紫府は帝星であり、疾厄の凶を鎮めることができ、基盤はなお安定しており、大病は侵しがたいことを主る。しかし天府が田宅を守ることが、居処の風水が健康に影響することをも暗示し、住まいを清潔に保ち、風通しを良くすることが宜しい。

生年の天同化忌が夫妻宮に在る。直接疾厄に坐すわけではないが、天同は水に属し、化忌は水液代謝の失調を主り、浮腫・泌尿・耳腎の病を生じやすい。夫妻宮はまた身宮であり、忌星が此に在れば、情緒の鬱結が健康を動かしやすい。命宮の丁干により巨門化忌が遷移に入り命を沖す。巨門は口舌・暗耗を主り、化忌が疾厄の体を沖せば、思慮過多・口舌の是非によって心神が乱れ、免疫に影響を及ぼすことを防がねばならない。官禄宮の己干により文曲化忌が夫妻に入る。文曲は水に属し、化忌は水厄を重くし、天同化忌と呼応して、中年以降は特に腎水と生殖系統に注意すべきである。化解の方向性：火星廟には多く水を飲み、徹夜・燥熱の飲食を忌む。地空に逢えば、養生は「虚」の字を重んじ、静坐・冥想は激しい運動より利がある。破軍の沖照により、高リスクの活動を避け、定期的に骨骼と内臓を検診すること。

75歳から84歳の壬午大限に至れば、疾厄宮が大限に引き動かされ、廉貞と火星が再び逢う。この二十年が健康の肝心かなめの時期である。壬午により天梁化禄が財帛に入り、破軍化権が父母に入り、巨門化権が遷移に入り、太陰化科が官禄に入り、貪狼化忌が僕役に入る。貪狼化忌が兄弟を沖し、兄弟宮の武曲化権が沖を受け、肺金の損傷がより明確になり、肺炎・気管支の旧疾再発を防ぐ必要がある。太陰化科が官禄に入れば、精神の養生に方があり、心境が平穏であれば、火氣の害を軽減できる。此の限は情緒の暴怒と過労を最も忌み、早寝して肝血を養い、飲食は清淡にして辛いものを少なくし、火氣旺盛の夏に逢えば特に慎むべきである。静心を保ち守ることができれば、紫微天府の福はなお大体の安康を保証し、疾厄の煩いは多くとも、大凶には至らないであろう。

巨門文昌照遷移，遠行揚名需慎言。

遷移宮に巨門が旺地、文昌が廟地に座し、「巨機同臨」の中でも口舌・才思に重きを置く組み合わせを成す。巨門は暗曜にて、是非と溝通を主る。旺地に在ればその言詞は力強く、弁証に長ずるも、直率さゆえに誤解を招きやすい。文昌此に在りて、文采と學術思辨を助く。故に此の宮は、専門的表述と跨界交流を要する職業に最も適す。雜曜の天才・破碎は、天才が学習と遷移における悟性を強め、破碎は計画に枝節が生じ易きを暗喻す。絶・大耗の煞が注ぎ、遠行の途上にて財運が動揺しやすく、早年或いは中年の外出には余裕を残し、安全の境界を保つべし。

对宮の太陽が陷地にて化禄し照入す。太陽は弱地に在れども、巨門の暗を完全に解消することは能わず。然れども化禄の慈悲心と外柔内斂の処世態度は、調和の媒介となり得る。衝突に遭いては退隱・隱忍を以て口舌に換えれば、損失を最小限に止め得る。かくして此の宮の「口業」の力は、転じて汝の人格魅力の主軸となる。

三合に夫妻宮の天同化忌・文曲・擎羊と、福德宮の天機陷・天魁を会す。天同化忌は往々にして人間親縁に煩擾をもたらし、夫妻宮或いは子女の情事が連累を生じ易し。此れ汝に遠行の際、家宅の感情を心を込めて営み、公事の煩いを内室に持ち帰らざるを戒む。福德の機陷・天魁にて、天機星は本智謀を主るも、陷地に在りては遷移の中に思慮過多・患得患失を生じ易し。天魁は貴人の表象なれど、汝が自ら援助を求めしめて初めて顕る。

四化に就きては、命宮丁干の巨門化忌が遷移に入り、命宮を冲す。此れ一大の鍵なり。平素或いは外に在りて眞實の意思・想法を露わせば、人に誤解され主流の自我を害し易し。筆端に訴うるか、或いは悶えを内に秘むるが宜し。遷移宮干辛にて、巨門化禄・文昌化忌が同宮に入り再び命を冲す。更に「言行一たび失すれば、反って自身を噬む」傾斜を強む。用詞を真剣に選ばざれば、真誠かえって諍いを引く。幸いに命宮太陽化権が遷移を照らす。汝が人に代わりて頭を出す慣性を跳び出し、公衆の場にて仲裁或いは伝道者の定位を樹て得ば、巨門の禄は名望に化し得べし。

田宅大限は当に戊寅にて紫微・府が守り、遷移宮の巨門旺相。外に在りて不動産・文旅策劃等、長久穩定の目的と多く相合す。65歳より74歳に至り辛巳限を行き、巨門化禄が遷移に入り、文昌忌また命を冲す。其の時、遠行・文化交流は旺期多し。然れども各吉が禄象に非ずして空しく落ち易きを恐れ、言詞或いは文書の紛糾を慎み防ぐべし。此の期間は専門智庫の人脈を養い、己の言に拠る所ありて、純粹なる主観的点评に非ざらしむるを、上策と為すべし。

僕役宮貪狼地劫，交友多波折，慎防損友。

あなたの僕役宮には貪狼が廟の状態で座し、地劫が同度しています。貪狼は交際の星であり、廟旺の場合は本来、朋友が多く人脈が広く、多才多芸で各方面からの助力を得られることを示します。しかし地劫が宮に入ると、影の如く付き纏い、あなたが人間関係の中でしばしば波乱に遭うこと、あるいは朋友が潮の如く去来し、協力関係に変数が生じやすく、「知り合いは天下に満ちても、心を知る者は幾人か」という様相を呈します。貪狼と地劫が絡み合うことで、欲望と現実の落差が一層際立ち、朋友によって財を失うこと、あるいは人を軽信して損失を被ることを防ぐ必要があります。この宮は来因宮であり、あなたの一生における人間関係の浮き沈みを示唆し、命盤の要として、その影響は終始貫かれます。

三方四正において、対宮の兄弟宮には武曲化権があり、「貪狼見武曲」の格局を形成しています。武曲は財星であり、化権は財権を司るため、あなたの朋友は金銭や事業に関わる者が多く、実質的な利益をもたらすこともあります。利益配分を巡って仲違いしやすい面もあります。三合の子女宮には七殺、禄存、天馬、鈴星があり、七殺は決断力を、禄存は財庫を、天馬は奔走を、鈴星は暗火を示し、あなたの交友圏には魄力があり開拓力に富む者が少なくない一方、口舌の是非が多く、朋友間の暗闘も生じやすいことを示します。父母宮の破軍は、年長者や上司が人間関係において改革者の役割を果たし、あなたに貴人を引き合わせるか、あるいは破壊的な変化をもたらすことを暗示します。

生年四化において、太陽化禄が命宮に入り、武曲化権が兄弟宮に入り、太陰化科が官禄宮に入り、天同化忌が夫妻宮に入りますが、いずれも直接僕役宮には落ちていません。しかし兄弟宮の武曲化権は僕役宮と遠く呼応し、朋友が事業や財務において与える助力と競争を強化します。宮干の飛化については、遷移宮の干辛により巨門化禄が遷移に入り、太陽化権が命宮に入り、文曲化科が夫妻に入り、文昌化忌が遷移に入ります。そのうち巨門化禄が遷移に入ること僕役宮を衝照し、外で人の助けを得やすくなりますが、文昌化忌が遷移に入ること、文書や契約の問題によって人間関係を損なうことも示します。財帛宮の干癸により貪狼化忌が僕役宮に入るのは、これが重要な引き金となります。大限や流年が財帛宮に至るとき、貪狼化忌が衝き起こされ、朋友や共同事業によって財を失いやすく、あるいは色情の紛糾に巻き込まれやすくなりますので、十分に注意しなければなりません。

化解の道は、貪狼の交際手腕を善用することにあります。地劫を戒めとし、万事に余地を残し、軽信せず深く交わらず、特に金銭の往来においては明確に清算することが肝要です。吉化が実現する条件は、あなたの命宮にある太陽化禄の仁厚な本性にあります。誠をもって人に接し、広く善縁を結べば、貪狼の助力が顕れ、朋友が貴人となり得るでしょう。

この宮が司る大限は55歳から64歳までであり、そのとき僕役宮が引き動かされ、人脈ネットワークに大きな変化が訪れます。この十年間、あなたは新たな協力者と出会うか、あるいは旧友と疎遠になるかもしれません。地劫による破財の兆しに注意し、特に投資や共同事業においては、攻めず守るのが良いでしょう。同時に、貪狼と地劫の組み合わせは、この時期にあなたが精神面や玄学に興味を持つことをも暗示しており、これを機に修身養性に励み、人間関係の紛擾を解消することができます。

太陰科

天喜 天姚 咸池 天壽 天徳 ・ 三方四正: 対宮 夫妻 ・ 三合 財帛、命宮

太陰陷科照官途，天同化忌婚姻牽。

官禄宮に太陰が陷落して坐し、生年化科に逢い、「科星陷地」の局を成す。太陰は富を主り、内斂を主る。陷地なれば才華は隠れ、顯達の職を強いて求めるべきにあらず。反つて幕後の策劃、財務、藝術など、細やかな心を用いる業に宜し。化科此に在れば、名声は温和に應じ、烈しからず躁がず。學術、顧問、審計の類の如く、專業を以て身を立て得。然れども太陰陷地なれば、基盤穩かならず、事業の成就是情緒と環境に左右され易く、完璧主義が時機を遅らせぬよう防ぐを要す。輔星の天喜、咸池、天姚聚まるは、官場に情縁多く、桃花が事業に入り込む。或いは公关、娛樂、人際 of 斡旋に利あれど、異性に困りて名を損なうも主る。故に身を正しく持するを要す。天壽、天徳は緩めの星にして、急難を解し、事に遇えば貴人の暗助あり、一敗地に塗れるには至らず。

三方四正に於いて、對宮の夫妻宮に天同化忌が直衝す。此れ官禄宮の最も重き牽制なり。天同忌は福蔭の損傷を主り、夫妻宮は又た身宮なれば、事業と家庭は必ず兩難と成る。或いは仕事の爲に家を冷たくし、或いは婚變に困りて職場に影響す。特に合作事業、合夥經營は忌む所とし、情に困りて變を生じ、財名兩失を恐る。財帛宮の天梁は旺地に坐し、天鉞陀羅を帶ぶ。事業の所得に清貴の氣ありと主るも、陀羅は遲滞を主り、金錢の入帳は波折多く、投機の速成に宜しからず。命宮の太陽は陷落して化禄し、「日入地網」と爲る。志は大なれど、他人の光（大企業、公職の平台の如き）を借りて初めて顯耀し得。單獨の奮闘は氣候を成し難し。

四化の引動に就きては、生年の太陰化科は既に官禄に入り、又た命宮の丁干太陰化禄が再び入る。科禄交馳すれば、事業に雙重の機遇あり。多くは中年後（45-54歳の大限）に名声と實利を併せ得。然れども官禄宮の己干文曲化忌が夫妻宮に入り、此の忌は宮を衝く。事業の應酬、桃花の紛糾に困りて婚姻を損ない、或いは文書契約の誤りが家庭に累を及ぼさぬよう防ぐを要す。夫妻宮の乙干太陰化忌は又た官禄を衝き、兩忌の對衝は、事業と婚姻の衝突が45-54歳の大限に於いて尤も劇し。其の時に公に困りて私を廢せば、晩景の孤清を恐る。

化解の道に就きては、太陰陷地なれば、南より北へ向かうか、或いは水に近き地を擇びて發展すべし。天同忌の衝は、婚姻に早く規矩を立て、公私を分明にし、内眷をして公事に涉らしめざるを要す。45-54歳は官禄宮の大限に当たり、太陰化科が禄を得て、專業の声望の黄金期と爲る。然れども文曲忌と天同忌の互衝なれば、簽約、合夥、感情の牽扯は必ず一歩一歩陣を敷き、寧ろ緩進すれども冒進すべからず。天徳の善を守り持ち、桃花を人脈に化せば、此の限は内斂型の權威を成し、名利雙收にして妒を招かず。

紫府守田宅根基厚，七殺對宮藏變數。

田宅宮は戊寅に座し、紫微・天府の双帝星を擁す。いずれも廟旺の地にあり、これはあなたの命格における不動産と家宅運勢の「定海神針」である。紫微は北斗の帝星にして、貴気・権威を司る。田宅宮に落ちれば、祖業に基盤あり、あるいは自らが高層の庇護を得ることを象徴し、家宅の格局は気派かつ伝統的なものに傾く。天府は南斗の財庫の星にして、廟旺なれば蓄積・安定を主る。紫微と同宮すれば「紫府同宮格」を成し、田宅宮において特に力を発揮する。これはあなたの名義の不動産が一箇所に留まらず、多くが保値・増値型であることを示し、家庭の経済基盤は盤石、父母の世代も相応の資産を遺すであろう。

双帝星が同じく守れば、田宅宮の氣勢は強旺なり。されど紫微は「百官朝拱」を喜び、天府は「財庫充盈」を重んずる。此の宮の三方四正を見るに、対宮の子女宮には七殺が廟旺に座し、右弼・禄存・天馬・鈴星が同度す。七殺の肅殺の気は田宅宮に直衝し、「紫府」と「七殺」の対峙を成す。これは家宅は穩固なれども、子女・合伙・投資の事により変動を引き起こし易く、特に不動産の売買は冒険的性質を帯び易く、衝動的な決断を戒めるべきことを暗示す。三合の疾厄宮には廉貞・天相が座す。廉貞は次桃花、天相は印星なり。同宮に左輔・地空・火星が廟旺に加わり、疾厄宮の火星廟旺は田宅宮と遠く呼応し、家宅の近辺に火形の煞（高圧電塔・煙突の類）あり、あるいは家電が故障し易く、防火に注意すべきことを主る。

兄弟宮には武曲が廟に化権す。武曲は財星にして化権すれば、田宅宮の財庫の力を強む。されど武曲は性剛、兄弟宮と田宅宮は三合の関係にあり、家族中の兄弟姉妹が不動産の分配に発言権を持つか、あるいは競争を経て祖産を得ることを示す。武曲化権が兄弟宮にあれば、中年以降の置産は兄弟との協力によることが多きも、権星旺んなれば争いを生じ易く、帳合いは明確にすべし。

雜曜に関しては、天巫は「昇遷・祭祀」を主り、天厨は「飲食・福氣」を主り、蜚廉は「小人・是非」を主る。三者同宮すれば吉凶相織り成す。天巫・天厨は田宅の福沢を増し、家宅には宴飲の楽しみ常にあり、あるいは祖上が祭祀の産業を遺す。されど蜚廉が田宅に入れば、家宅に口舌是非を招き易く、特に不動産取引の際は仲介や近隣との紛争を防ぐべし。また蜚廉は僕役宮の地劫・寡宿と呼応し、家中に使用人・賃借人の問題を生じ易く、契約には慎重を期すべし。

四化の引動に関しては、生年の天同化忌が夫妻宮に在す。天同は福を主るも、化忌すれば福沢損なわる。夫妻宮と田宅宮に直接の四化の関連は無けれども、夫妻宮の干乙により太陰が化忌して官禄宮に入る。官禄宮の太陰は陷に化科し、太陰は田宅の主星なり。化忌は田宅の対宮たる子女宮を衝き、事業の奔走や感情の波動により間接的に家宅の安寧を損ない、特に家を買う際は夫妻の意見の相違により遅延し易し。命宮の干丁により巨門が化忌して遷移宮に入り、命宮を衝く。遷移宮の巨門は旺、文昌は廟。巨門化忌は口舌を主る。此の飛忌は直接田宅に入らざれども、遷移宮と田宅宮は関わり無し。されど巨門化忌が命宮を衝くは、仕事や外出の事により家宅の不安を感じ易く、賃貸・引越しの際に意思疎通の滞りを生じ易きを暗示す。財帛宮の干癸により貪狼が化忌して僕役宮に入る。僕役宮の貪狼は廟、地劫を伴う。貪狼は欲望の星にして化忌すれば、朋友・合伙により財を破り、ひいては購房資金に影響を及ぼす。

故に35歳より44歳の大限は田宅宮に至り、此の十年は田宅運が引動され、紫府の力が全面に顕現す。置産・相続・裝修の黄金期なれども、大限田宅宮の飛廉・蜚廉は疾厄宮の火星と相俟ち、購房の際は権利関係の紛糾を精査し、裝修の際は火の用心に注意すべきを告ぐ。また大限田宅宮は子女宮の七殺と対衝し、此の期間に子を設けるか子女が成年すれば、不動産の名義変更・分家により矛盾を生じ易く、予め契約を交わし公証を取るのが宜し。

化解と兌現の道：紫府が田宅を守るは本より吉象なれど、七殺の対宮・蜚廉の入宮は「守成は易く、開創は難し」を告ぐ。安定した増値を求むるならば、地段の核心に位置し管理の行き届いた成熟した社区を選び、郊外の新盤を避くべし。投資を欲するならば、武曲化権の力を借り、信頼に足る兄弟或いは専門機関と協力し、財務の規律を厳守してレバレッジに貪らざること。

蜚廉の非は、家の正南方（離卦の位）に銅製の瓢箪或いは白玉の貔貅を置いて口舌を鎮め、同時に不動産の書類は必ず書面の証拠を留め置くべし。疾厄宮の火星廟旺に鑑み、電気回路・ガスの定期点検を怠らず、家には多めに消火器を備えよ。

大限の示唆：現在35歳より44歳は戊寅の限を行き、田宅宮は大限に引動され、紫府の力は全面的に放たる。此の十年は人生の置産のピークなり。特に36歳（己酉流年）は文曲化忌が夫妻宮に入り官禄を衝く。此の年の購房は契約書類・ローンの細部に誤りを生じ易く、弁護士を立てて把关せしむべし。40歳（癸丑流年）は貪狼化忌が僕役宮に入り、此の年は朋友との合資購房を避け、資金の套牢を防ぐべし。42歳（乙卯流年）は太陰化忌が官禄宮に入り、此の年は仕事の変動或いは事業の圧力大きく、不動産の大事を同時に処理するに非ず。43歳（丙辰流年）に延ばせば武曲化権が兄弟宮に入り、其の時は兄弟の助力強く、合作置産は成るべし。

総括すれば、田宅宮は紫府の双帝を擁し、根基は深厚なれども、七殺・蜚廉は暗に波動を蔵す。正を守り奇を出だして、初めて家宅の永安を得べし。

福德 己丑

己丑 25-34 ・ 衰・奏書

天機 天魁

三方四正：対宮 財帛 ・ 三合 遷移、夫妻

天機陷落福德宮，思慮過甚心難安。

福德宮は精神世界と享受を司り、ここに天機が坐して陷落し、天魁の貴人が添う。天機は知恵の星にして、本性は機敏で活発、されど陷落に坐しては謀略に長けながらも決断力に乏しく、往々にして思案に暮れて行動が遅れる。あなたの心は常に利害の損得の間で揺れ動き、特に人生の重大な岐路に立つ時、あれこれと算盤を弾いては夜も眠れぬほど思い悩むことが多い。天魁の坐守は暗夜の一筋の光の如く、困窮の折にふと現れる貴人の導きや、年長者の知恵ある助言によって、精神の袋小路から抜け出す手掛かりを得られることを示す。福德宮の地に落ちれば、心労が絶えず、中年を過ぎてからは特に精神の養生を重んじ、思慮の過ぎて気を消耗せぬよう心掛けるべきである。

この宮の三方四正には、対宮の財帛宮に天梁が旺度で照らし込み、物質的な欲に汲々とせず、清く慎ましい価値観を以て自らを律するならば、質素な日常の中にこそ人生の真の味わいを見出せることを教えている。遷移宮の巨門に文昌が加わり旺度を成すのは、外の世界へ目を向け、旅や学び、あるいは異分野への探求を通じて、心に澱んだ思いを効果的に解き放てることを示す。夫妻宮の天同が化忌を成すのは、感情の上での完全を求める心が、しばしば心の安らぎを損なうことを暗示する。伴侶への過度な期待や依存が、かえって精神の重荷となつてのしかかるのである。

命宮の丁干は天機を科として福德宮に入れる。これは天命が能動的に福德の宮へと導き、この一生の精神的な成長の鍵が「智を以て心を養う」ことにあると示す。天機の聡明さを、ただの空想や策略に費やすのではなく、技芸や学問、あるいは計画を練るといった現実の道へと向けるなら、それは福德を積む行いとなる。この科の incoming は、あなたに独特の気品を与え、言葉遣いや立ち居振る舞いに機知と雅やかさが滲み出て、社交の場で人々の好感を集めるだろう。されど天機が陷落の地に科を成すは、あたかも鏡に映る花や水面に浮かぶ月の如く、現実の裡に具体的な成果を以て裏打ちせねば、往々にして絵に描いた餅に終わってしまうのである。

25歳から34歳までは戊寅の大限を歩み、田宅宮に紫微と天府が旺度で坐守する。この十年は物質的な基盤が次第に固まる時期である。されど大限の命宮たる田宅宮が貪狼を化忌して僕役宮に入れるは、人付き合いの中での利益の絡み合いが、しばしば心の内に煩いを引き起こすことを示す。福德宮の天機はこの限において田宅宮の吉曜に引き寄せられ、精神世界と家庭の責務とが交錯する。想いを巡らすよりは、むしろ不動産の取得や家の営み、あるいは家族の為す事柄に心を注ぎ、知性を現実の地に根付かせることで、空想の弊害を解消できるのである。この大限の終わりには、あなたはきっと実務の中で心の安めどころを学び、中年以降の精神的な豊かさの礎を築き上げていることであろう。

破軍

天貴 天哭 天虛 ・ 三方四正: 对宮 疾厄 ・ 三合 僕役、子女

父縁早變，破軍動盪，借僕役子女之力得解。

父母宮に破軍が単独で座す。破軍は耗星とされ、開創を主るも破旧も主る。この宮に落ちることは、両親の関係や父の人生の歩みに変動の多い様相を示し、離れ離れの日々や観念の衝突は避け難い。破軍が廟旺にあれば、なお動乱を突破力に転じ得る。父は敢えて事を為す人物かもしれないが、引っ越し、転業、離郷などの大局的変動は、恐らく汝の十五歳から二十四歳までの大限内に定局となるであろう。さらに天哭・天虚が同度し、この宮の孤克と空乏の感を強める。あるいは早くに父との情感に隔たりがあり、助けも限られていたことを示し、または父方の健康に憂いがあったことを示す。この二星は虚耗の煞であり、破軍の「破」をいつそう蒼涼たらしめる。されど天貴が同宮すれば、暗に貴人の転機を蔵す。父は肝心な時に外部の助けを得て、全てが困窮に陥ることはないであろう。帝旺・將軍を見れば、父の気性は剛烈で、管教は権威を帯び、かえって少年期の対抗を深める。これも縁が早くに変わる所以である。

三方四正において、对宮の疾厄宮に廉貞・天相が照らす。廉貞は次桃花、天相は印星。父母は動乱の中にも、底线と調和の力を有し、身体に小恙はあれど大患はないことを示す。疾厄の照は、父の心血管・内分泌などの慢性病に留意せよとの戒めでもある。三合宮の僕役宮に貪狼が廟旺し、子女宮に七殺が独守する。いずれも温和の星ではないが、汝と父の縁が薄き時、かえって朋友・下僕・後輩より実質的な助けを得られることを示す。これは破軍の「耗」が六親の外にて補われる所以なり。僕役宮の貪狼化権は、さらにこの力を増す。汝が成年後の事業の伴侶や後輩は、多くが汝と父の関係が緊迫せる時に緩衝の役を果たすであろう。

四化の引動において、文曲化忌が官禄を冲す。この宮の最も深き牽制を明示す。父の事が曾て汝の学業・事業への専念を動かし、家変に心を分かつか、或いは長上の期待が圧となったのである。然るに遷移宮の干辛により巨門化禄が遷移に入り、太陽化権が命宮に入る。これは大限または流年の引動による転機なり——汝が家を離れ外に向かい発展する時、父との緊張はかえって解け、命宮の太陽化権は次第に強まり、自ら運命を主り、もはや父の影に掣肘されることはない。生年の太陽化禄は命宮に在れども、汝の行運が遷移宮に至りて力を発する時を待たねば、真にこの力を実現することは叶わぬ。

十五歳から二十四歳までの大限は正に父母宮を行く。この十年は此の宮のエネルギー最も盛んなる時であり、家庭の変動、父との縁の浮沈、学業や離家の変は多く此に由る。されど破軍の性は、破して後に立つ。汝が能く自ら父の背後の已むを得ざるを理解せば、此の限の反叛と動乱は、かえって汝の独立人格の鍛造期とならん。此の限を過ぎれば、父との縁は淡しと雖も、同輩の視角にて家族の歴史を顧みるを妨げず。化解の道は：父を変えんと執着せず、破軍の開創力を自らの事業の開拓に向けよ。天哭天虚の孤寂の感は、汝が功成り名遂げし時、父への沈黙のうちに深き体諒と化さん。

領域

事業・財運・愛情・家族・健康——人生の五領域、各々に宮あり

事業 盤証：官禄[己卯] 太陰化科

官禄宮の太陰が陷落し化科し、身宮はまた夫妻宮に落ちる。この盤の事業格局は、突進する道筋を取るのではなく、柔をもって剛に克ち、暗處にて真價を示すものだ。太陰主星が卯宮に在りて陷と為すは、本来「月出でて東山に在り」ながら雲に遮らるる象を有すれども、化科の力は恰も月光が雲を貫くが如く、逆に「陷」をして微細なる洞察力と審美判断とに轉ぜしむ。汝の事を為す様は、多くは幕後に在りて策を練り、専門の細部を以て人を服せしむるものにして、臺前に在りて聲を囁らすには非ず。太陰化科は又た天喜・成池・天姚に逢ふ。汝の職業上の成就是「人縁美學」と深く結び付く——产品设计、内容創作、品牌策劃、財務精算に至るまで、凡そ抽象なる感觸を具體なる成果に轉ずるを要する領域に在りて、皆な能く其の長を發揮すべし。但し太陰陷落は又た示す、汝は完美を追い過ぐるが故に反復修改、自己消耗の泥沼に陥り易く、「山を九仞に築きて功を一簣に虧く」の傾向を警戒すべしと。

命宮の太陽が陷落し化禄し、官禄宮の太陰化科と「日月並明」の變格を成す。太陽が亥に在りて陷と為すも、化禄の加持を得。これは汝の骨子に濟世の志有れども、光芒は内に斂め、張り出すを好まずと示す。此の性格は事業上に於いて雙刃の劍なり：利する所は、汝が沈みて研究に専念し、虚名を慕はず、専門領域に深き積みを成すを得るに在り；害する所は、太陽陷落は汝をして肝心の時に魄力を缺かしめ、實力有りながら敢へて争ひ取らざるか、或いは團隊に在りて甘んじて配角と為り、功勞を傍らに落とさしむるに在り。命宮丁干の巨門化忌が遷移宮を冲つは、更に此の點を強む——汝の内心には常に「言多ければ失あり」の慮り有り、公開の場に於ける發言、匯報、談判に面しては、多くは壓力を感じ、或いは表達の暢かならざるが故に良機を失ふ。但し遷移宮の巨門旺、文昌廟は、又た暗示す、汝が心理の障礙を突破し、専門の見解を文字或いは系統化せる方式を以て輸出せば、却つて權威を建立し得べしと。

官禄宮の三方四正の中、財帛宮の天梁旺が陀羅に會ふは、「清貴」の象なり。天梁は蔭を主り、陀羅は磨を主る。汝の収入の増長は多く「難題を解く」に掛かる——人々が避けて止まざる複雑なる問題、陳年なる積弊ほど、汝は其れより利を得る。但し天梁が陀羅に逢ふは又た示す、汝は貪りて快を求め速を求むべからず、若し短期的利益の為に「汚れ仕事」を受けなば、勞して功無きの境地に陥り易しと。遷移宮の巨門化禄、文昌化忌は、「文星暗拱」にして破綻を帶ぶる組合せを成す：汝は異地、異業、或いは跨領域の平臺に在りて發展するに適すれども、文昌化忌が命を冲つは、契約條項、知識產權、文書細部に格別の注意を要し、然らざれば疏忽に因りて暗がりに損を喰ふべし。命宮太陽化禄と遷移宮巨門化禄とが遙かに呼應すは、汝の貴人は多く「遠方」に在り——異なる部門、異なる都市、或いは異なる行業の合作者にして、身近なる知人には非ずと示す。

生年の武曲化權が兄弟宮に落ち、官禄宮己干の武曲化禄が又た兄弟に入るは、「權禄交馳」が交友宮に在る格局なり。武曲は財星にして、化權化禄同宮す。汝の掌權の道は職位の高低に在らずして、「資源調度」に在りと豫示す——汝は團隊の中に在りて、核心數據、供應鏈、或いは資金の流れを掌る關鍵人物と成るを得べし。但し兄弟宮は亦た「平輩宮」にして、職場に於ける助力は多く同儕より來りて上司よりは來らず、且つ「功高きは主を震ふ」を防ぐを要すと示す：汝の専門能力が上級を脅かす時、武曲化權の剛硬は卻つて打壓を招くべし。35至44歳は戊寅大限を行き、田宅宮の紫微天府が坐守す。此の限は事業根基の奠定期にして、大平台に在りて専門の壁を深く掘り下ぐるに宜しく、急いで自立門戸を開くには非ず。真の爆發點は45至54歳の己卯大限に在り、官禄宮太陰化科が大限官禄干の文曲化忌と逢ひて夫妻に入る。其の時汝は「作品」を以て「職位」に非ずして名を揚ぐべし。但し家庭と事業の平衡に注意し、工作に因りて伴侶を顧みざるが故に後方の火を引き起すを避くべし。

此の盤最も忌むべき職場の陷阱は、「情を以て法に代ふ」に在り。夫妻宮の天同化忌、文曲擎羊同度、官禄宮己干の文曲化忌が夫妻に入るは、汝が感情に因りて事を爲し、或いは同僚と曖昧なる糾葛を生じ、以て専門判断を影響せらるるに易しと暗示す。擎羊が夫妻宮に陥るは、更に競争關係に因りて敵を作るを警戒すべし。汝の職場の貴人は「天梁、天鈺の氣質を帯ぶる」長者或いは跨界人士なり——彼らは多く汝が是非に陥る時に現はれ、權威の身份を以て汝に背書す。記せ：汝の成功は鋒芒に依らずして、「月照千江」の滲透力に依る——專業の成果をして汝に代はりて語らしめ、時間をして價值を證明せしむべし。

財富 盤証：財帛[癸未] 天梁

財帛宮に天梁が旺度で座し、天鈺・陀羅も同宮にある。これは典型的な「蔭星掌財」の格局である。天梁は元来、清貴の星とされ、財は名より来たり、職より来たるを主とし、投機や算段を好まず、人と組んで利を争うのも宜しくない——むしろ専門的な声望、調停・仲裁、顧問・コンサルタントといった「智財」の形で富を積むことを志向する。陀羅が同宮することで、緩やかでありながら持続的な性質が生まれ、あなたの財は一朝一夕に得られるものではなく、年月をかけて繰り返し磨かれることで次第に厚みを増していく。天鈺は貴人星であり、財を求める道すがら、しばしば年長の女性や陰ながらの支援者が現れることを示す。ただし、この助力はあなたが「正道を守る」時にこそ働き、脇道に逸れると効力を失う。財帛宮の干癸が巨門化権を移動宮に引き込み、貪狼化忌を僕役宮に入れるのは、あなたが財を稼ぐ上での隘路が能力ではなく、人間關係の境界にあることを示している——過度な付き合いや、人の仲介を軽く信じるのが、かえって財を損なう原因となる。

三方が四正を成すのを見れば、官禄宮には太陰が陷地で化科し、財帛宮の天梁と「科星照財」の勢いを成す。あなたの本職の収入はさほど高くないものの、安定して徐々に上昇し、専門的な評判によって臨時の報酬を得ることも多い。太陰化科が官禄にあるのは、文化・財務・世話役に関する仕事に就くのが適しており、または本業の他に「副業が科を成す」機縁があることを示す。ただし、太陰陷地の化科は、いわば「月は天門に朗らかなれど光は微か」であり、正財の伸びは限定的で、積み重ねと名声の加成に頼るほかない。徳福宮には天機が陷地し、対宮の移動宮には巨門が旺度、文昌が廟地にあり、さらに移動宮の干辛が巨門化禄を移動宮に引き込み、文昌化忌も移動宮に入れる——この飛化の組み合わせは極めて重要である。巨門化禄が移動宮にあるのは、外出・遠行・異地の機縁が財源をもたらすことを示すが、文昌化忌も同じ移動宮に落ちることで、文書・契約・口約束が変わりやすいことを示唆する。あなたの財は、半分は本業から、半分は「動き回る中で生まれる」ものである。しかし、契約のたび、協定のたびに繰り返し検証しなければ、稼いだ金が法律上の争いや情報の齟齬によって吐き出される恐れがある。

生年の太陽化禄が命宮にあるのは、「禄在命宮」という典型の構造であり、あなたは生まれつき人縁を集め、資源を得る氣質を備え、金を稼ぐ「入り口」は自身にある——あなたの性格・話し振り・信用そのものが生財の道具である。ところが、生年の天同化忌が夫妻宮にあり、夫妻宮の干乙が太陰化忌を官禄宮に引き込む。この二つの忌星は「忌入財帛三方」の格局を形成する。天同忌が夫妻にあるのは、家庭・配偶者・情感關係のために金を使う負担が重く、しかもその支出はしばしば計画外に生じることを示す。太陰忌が官禄に入るのは、仕事上の財務の穴——例えば経費精算の遅延、給与の紛争、プロジェクトの立て替え金の回収難などを示す。禄存は子女宮にあり、右弼・天馬と同度する。あなたの財庫は自分の手元にあるのではなく、「次の世代・学生・部下・投資対象」の中にある。禄存は蓄積を主とするが、鈴星・七殺に囲まれているため、この財庫は「守れるが大きく動かせない」性質を持つ。不動産や長期貯蓄、子女の教育基金など、流動性の低い形で保有するのが良い。

あなたは現在、戊寅の大限を歩んでおり、田宅宮に紫微・天府が同度する。これは大限の財帛が強旺であるという強い兆しであり、35歳から44歳は不動産を置く上での重要な十年である。紫微・天府が田宅にあるのは、不動産運が厚いことを主とし、この時期に自住の家屋や中心部の物件を購入すれば、価値が保たれ増すことが多い。ただし、大限の田宅宮の干戊が貪狼化禄を僕役宮に引き込み、天機化忌を徳福宮に入れる。これは二つのことを示す。一つは、共同投資や友人の仲介による案件が短期的な収益をもたらすが、天機忌が徳福に入ることで「考え過ぎて好機を逃す」または「焦りから誤った財務判断をする」ことを表す。二つ目は、この大限の財は「静をもって動を制す」のが宜しく、株式や仮想通貨のような変動の激しい領域への頻繁な出入りは避けるべきである。破財のリスクは移動宮の文昌化忌と夫妻宮の文曲化忌（官禄宮の干己が文曲化忌を夫妻宮に引き込む）に集中する。

前者は契約の罟を防ぎ、後者は感情・婚姻に絡む財務上の損失を防ぐ。あなたが真に財を管理する上での強みは「智を以て財を生む」ことにある——天梁の知恵、太陰の繊細さ、太陽化祿の人脈、この三者を結びつけることで、長期の価値投資と知識の現金化に最も適している。守成は基盤であり、流動は翼である。だが、感情の高ぶる中で重大な財務決定を下すのは避けるべきで、特に旧暦五月と十一月は控えることだ。

感情婚姻 盤証：夫妻[乙酉] 天同化忌

【感情婚姻】

乾造夫妻宮坐天同平、化忌，文曲廟、擎羊陷，紅鸞星獨耀。天同本為福星，卻化忌入夫妻，主情緣初時甜膩，久則生倦，且配偶性情外柔內急，情緒起伏如潮汐，需以柔克剛。文曲廟旺，配偶才情橫溢，善言辭修飾，然擎羊陷地暗藏剛烈，爭辯時言語如刃，易傷和氣。紅鸞星入夫妻宮，早歲便招桃花，然此星性浮，若不经沉澱，恐流於露水情緣。配偶年齡或長於命主三歲上下，因天同化忌主晚熟，紅鸞又主異路相逢——或由文字、網路、友人牽線結識，而非青梅竹馬之緣。

桃花星曜分布，貪狼廟居僕役宮，主交際圈中多艷遇，然地劫同度，情緣若煙火，絢爛易逝。廉貞平守疾厄，與火星廟、地空同纏，為情慾暗流，須防因色損身。紅鸞在夫妻，天喜在官祿，咸池、天姚共居官祿，則職場中易有曖昧，然此二星偏邪，若涉三角，必生糾葛。其餘桃花星力弱，故命主雖桃花不絕，然正緣終歸夫妻宮之宿

化忌涉情之要，首推夫妻宮天同忌，復加遷移宮巨門忌沖命，主感情中口舌是非，常因言語誤會導致冷戰。夫妻宮干乙又引太陰忌入官祿，沖夫妻，則事業壓力常波及感情，若忙碌時輕忽伴侶，則怨懟暗生。命宮太陽化祿，卻陷落，示愛時熱忱外放，然缺乏持久，常以物質或行動示好，卻疏於心靈溝通。盲區在於太陽陷地，主命主易忽視配偶內心需求，以為付出即得回報，反而令對方感到疏離

磨擦當起於夫妻宮擎羊之烈，與文曲之敏——若爭執起，配偶言辭如刀，命主則衝動回應，小事化大。加之 大限行至戊寅田宅宮，紫微天府統御，與夫妻宮天同忌成夾制，家宅事務（如置業、長輩瑣事）易成導火索。長久經營要訣，在於借官祿宮太陰化科之柔，以細膩關懷化解天同忌之鬱結；又當善用命宮太陽化祿之暖，主動破冰，以太陽之光照徹巨門之暗。切忌據理力爭，當學天梁旺於財帛之智慧，以退為進，以柔濟剛

婚戀節奏上，紅鸞早現，然天同忌與擎羊陷為晚定之兆，早婚多在25歲前，然恐波折。正緣應期在35歲後，行戊寅田宅限，紫府守宅，家業初定，夫妻宮得吉化引動，此際婚配安穩。若虛歲四旬前夕（即55-64歲庚辰限前），官祿宮太陰化科逢吉，再論姻緣，亦是諸美。然勿因貪狼之蕩而迷情，守本心方得良緣。

六親家庭 盤証：父母[戊子] 破軍

父母宮に破軍が単独で座し、天哭・天虛にも逢う。目上の者との縁は、往々にして離合集散の相を帯びる。破軍は旧を破り新を立てる星であり、父母宮に在れば、父祖との関係は伝統的な意味での継承ではなく、むしろ「新たに炉を起こす」格局であることを示す。目上の者からの引き立ては、既成の資源を直接与えられるのではなく、何らかの「断絶」や「変動」を通じて自立を迫られる形となる——例えば目上の不在、観念の衝突、家業の中途衰退などが、かえって早熟を促し、自ら切り開く力を養うことになる。命宮に太陽化祿が在るも、亥宮に陥り、月徳・天官の輔佐を得る。自身には人を温める力があり、その光は年長者の賞識をも引き寄せるが、彼らは多く道を示すのみで、代わりに歩んでくれるわけではない。35歳以降、田宅宮の大限を迎え、紫微天府が鎮座すれば、家宅の基盤は次第に安定し、目上との関係も「疎遠」から「実質的な支援」へと転じる兆しがある。ただし破軍の本質は戒めている——目上からの助力には、往々にして「改革」の要求が伴う。助けを受けるということは、彼らによる生活様式への干渉を受け入れることも意味するのだ。

兄弟宮に武曲化権、解神・三台・龍池にも逢う。同輩の中には権力者や実務家が多く、互いに助け合う縁に恵まれる。武曲化権は「利をもって交わる」ことを主とし、兄弟や友人は実質的な資源や人脈をもたらしてくれる。特に事業の開拓期において、彼らは最も頼りになる「外援」となる。ただし武曲は剛烈、化権はさらに強勢を増すため、同輩との協力は「誰が主導権を握るか」で摩擦を生じやすい。僕役宮に貪狼が廟旺し、地劫・鳳閣を帯びるのは、交わる友人が多才多芸で社交手腕に長けることを示すが、貪狼は本質的に欲望が深く、地劫は破耗を主とする。協力に際しては必ず金銭を明確にし、特に財務の往来には規則を定めるべきである。さもなくば利益配分の不明瞭さから感情を損ねる恐れがある。官禄宮の干は己、武曲化禄が兄弟宮に入り、文曲化忌が夫妻宮に入る。これは事業の成就が同輩の助力と深く結びつくことを示すが、事業に専念するあまり家庭を顧みなければ、夫妻宮の天同化忌が引き起こされ、「友を得て配偶者を失う」憂いが生じる。同輩は生涯の資源であるが、境界は明確にすべきである——事業を共に謀ることはできても、家事を共に担うべきではない。

子女宮に七殺が単独で座し、右弼・禄存・天馬が同度し、鈴星は陷る。七殺は將星であり、子女は気性が剛く、独立心に富み、幼少より束縛を嫌う性質を示す。禄存と天馬が同宮すれば、子女は遠方へ赴く相があり、成長後は外地で発展し、自らの力で生計を立てるため、過度に心配する必要はない。ただし七殺に鈴星が伴うため、教育に際して高圧的な強制は厳に戒めるべきである。支配しようとするほど、彼らは反発する。命宮の太陽化禄は本来慈愛の心を持つが、太陽が陷るため、関心を表す際に「心は熱くとも面は冷たく」なりがちで、子女はその温もりを感じ取れず、かえって疎遠に感じる。教育の方法は「放牧式の導き」が適切である——方向を示しつつ、彼らの選択を尊重するのだ。子女宮の干は甲、廉貞化禄が疾厄宮に入り、天機化科が徳宮に入る。これは子女の成長が、かえって自身の健康意識と精神修養を促すことを示す。彼らは「晩年の福の源」であるが、その実現は遅い。中年期に子女の膝下での孝養を求める必要はなく、55歳以降に僕役宮の大限を迎え、子女が成人して独立した頃に、ようやく天倫の楽しみを味わうことになる。

田宅宮に紫微天府が同度する。これは「帝王が庫に入る」格局であり、家宅の基盤は深く、先祖の庇護に依ることができる。ただし紫微天府はいずれも「大」を主とし、不動産に対する志向は「気派で体裁が良い」ことに傾く。借金してでも大邸宅を求め、小さい住まいには甘んじない。天巫・天厨が同宮すれば、家にはしばしば美食の集いがあり、住環境の質と飲食の楽しみを重視することを示す。ただし田宅宮の干は戊、貪狼化忌が僕役宮に入る。不動産取得に際しては「友人の仲介」の罠に警戒すべきである——知人から紹介される不動産や共同投資は、慎重に調査しなければ、人情によって損をする恐れがある。現在は戊寅の大限を歩み、まさに田宅宮の大限である。35歳から44歳は不動産取得と家を構える重要な時期であるが、紫微天府は遅さを主とするため、急ぐべきではない。40歳以降、大限の中盤に重大な不動産決定を行うのが良い。その頃には基盤がより安定している。家庭責任のリズムとしては、前半生は事業と同輩との交渉に重心を置き、35歳以降は次第に家庭へと向かう。しかし真の「安らぎの家」を実感するのは45歳以降、官禄宮の大限を迎え、太陰化科が命宮に入る頃であり、その時に初めて「家は帰る場所なり」という実感を得るのである。

健康養護 盤証：疾厄[壬午] 廉貞、天相

疾厄宮は壬午に落ち、廉貞平と天相廟が同度し、左輔・地空・火星廟が併せ照らし、天福・截路・天使が輔佐する。廉貞は火に属し、心と小腸を主る。火星廟は火象を加重し、心火は亢進しやすく、血循と睡眠は干渉を受けやすい。天相は水に属し、腎と膀胱を主るが、地空・截路に挟まれ制され、水気は続かず、腎精の収蔵の力はやや弱まる。火星は明火であり、最も忌むのは夜更かしと気の昂りである。火が旺んで水が涸れれば、心腎不交の象がここに生じる。疾厄の三方四正、対宮の父母宮には破軍廟が独坐し、破軍は水に属し、疾厄を衝照して水勢は動揺する。腎水はすでに火に灼かれ、さらに破軍に攪拌されれば、泌尿・内分泌系は起伏しやすい。財帛宮の天梁旺は陀羅廟を伴い、天梁は土に属し、陀羅は金に属す。土金相生は本来脾胃を護持し得るが、陀羅は遲滞の性ゆえ、消化は積滞と反復を生じやすい。子女宮の七殺廟は鈴星陷・禄存・天馬を伴い、七殺は金に属し、鈴星は火に属す。金火交戦し、大腸と筋骨は労損しやすく、天馬の奔波はさらに消耗を増す。

命宮の太陽陷は化禄し、生年化禄である。太陽は火に属し、陷に落ちれば火勢は外に散じて内は虚し、精力は外に耗されやすく内を守り難い。福德宮の天機陷は天魁を伴い、天機は木に属す。木が陷すれば肝膽の疏泄は滞り、思慮過重にして気機は鬱結する。五行の偏枯する所、火は過旺にして水は不足し、木は火に焚かれ、金は火に克たれる。腎水を滋養することを第一の要務とし、黒色の食物と静水の運動（水泳・緩歩など）は水気を元に帰す助けとなる。脾胃の土気は火に生じられて燥するゆえ、温和な飲食を宜とし、辛熱燥熱を忌む。肝膽の木気は舒やかならんことを要し、朝の伸びや情緒の疏通は進補に勝る。疾厄宮の火星廟と命宮の太陽陷化禄は呼応し、体質の基盤は弱くないが、火性は炎症と急症を引き起こしやすく、発作は来るのが速く、平素は小恙を軽んじがちである。定期検診の習慣を養い、特に血圧・心率・泌尿系統に留意すべきである。

情緒と作息については、遷移宮の干辛により巨門化禄が遷移に入り、文昌化忌も遷移に入る（命宮を衝く）。巨門は口舌を主り、文昌化忌は文書と溝通に滞りを生じやすい。物事を胸に秘めて繰り返し思い悩む傾向があり、火気が上れば夜の眠りは安らかならず。夫妻宮の天同平は化忌（生年化忌）し、文曲廟・擎羊陷・紅鸞を伴う。情感の波動は直接心火を牽き、親密な関係における不如意は身体の消耗に転じやすい。情緒を紙に書き出すか対話に出すことを練習し、独りで消化せぬよう心がけるべし。命宮の干丁により巨門化忌が遷移に入り（命宮を衝く）、外出や遠行の際は特に作息の規律に注意し、無理を逞しくせぬこと。現在は戌寅大限（田宅宮）を行き、紫微・天府が限を守る。土気は厚く、かえって火を制し金を生じ、調養の基盤を固める好機である。ただし田宅宮の干戌により貪狼化忌が僕役に入り（兄弟を衝く）、応酬の場では飲食が過ぎて脾胃を傷めやすいゆえ、酒肉を節すべし。45歳から54歳は己卯大限（官禄宮）に入り、太陰陷は化科し咸池・天姚に遇う。水星が陷して化科すれば、腎陰不足の象が次第に顕れる。また官禄宮の干己により文曲化忌が夫妻に入り（官禄を衝く）、仕事の圧力と家庭の責任が重なり合い、慢性消耗の防止が最も肝要となる。その折、流年の天干が武曲化忌または貪狼化忌を引き起こせば、筋骨の損傷と代謝異常に重点的に留意せねばならない。

命理はただ養生の参考に供するのみであり、身体の不調は専門の医師に相談されたい。

時 間

命は体、運は用；時を知りて後に進む

當前大限詳解 十年基調

三十五歳より、あなたは戊寅大限に入り、田宅宮に至る。紫微と天府の双帝星が同座し、この十年の基調は「経営」と「承托」の四字に定まる。紫微は北斗の帝星、旺地に入限して権柄・声望を主り、全局を統御する象あり。天府は南斗の庫星、廟地に同宮して守成・積累を重んじ、根基の深厚なる兆しとす。双星並び立ち、一は開創の貴、一は守成の富。この十年、あなたは外に向かつて拓き、号令一方の雄心を持つとともに、内に向かつて固め、基業を安定せしめる忍耐も求められる。天巫・天厨の二曜、一つは靈通の慧を主り、一つは口福の享を主る。この時期、不動産・家宅・家族産業、あるいは飲食・文化に関わる分野にて、縁と助益多きを示す。蜚廉は、名声は起こりやすく、また是非を招きやすいと告げる。万事、余地を残すべし。

此限の干は戌、貪狼化禄を本命僕役宮に動かし、太陰化権を大限官禄宮に入れ、右弼化科を本命子女宮に、天機化忌を本命福德宮に入れる。そのうち、太陰化権は直ちに大限官禄に入り、本命生年の太陰化科と遠く呼応す。これにより、あなたの事業における計画と実行は、条理の科と決断の権を併せ持ち、不動産・金融・内務管理など「陰柔」の性質を帯びる事務に、最も力を発揮できる。而して貪狼化禄は僕役に入り、貴人・友朋・協力者がこの十年の資源の重要な源泉となる。人脈即ち財源、されど貪狼は桃花と欲望を帯ぶ、利によつて義を忘れる交わりに防ぐべし。最も警戒すべきは、天機化忌が福德に入ること。本命の天機は元より陷落し、此限に再び忌を引けば、心は反復する思慮に陥りやすく、多疑善変、精神の内耗は重し。特に決断に関わる際、朝令暮改に陥り、自ら陣脚を乱すことなかれ。

大限命宮の三方四正、遷移宮には巨門が旺、文昌が廟、巨門化禄・文昌化忌を同見し、「禄逢冲破」の局を成す。外出の発展や遠行の求財には、言語・文書の利多し。されど口舌・契約の細部により損を招きやすい。故に遠行は謀る可きも、契約は慎むべし。財帛宮には天梁が旺、天鉞・陀羅に会す。天梁は本より蔭星、財を得るは多くは長輩・貴人の提携に依る。然れど陀羅が財帛に入れば、金銭の出入りは遅延・反復多く、投機の急進は宜しからず。子女宮には七殺が廟、禄存・天馬・右弼を帯ぶ。此宮は三方の中、最も開創力ある処。七殺の衝勁に禄存の実利を配し、もし精力を新事業の開拓・子女教育・芸術創作に投じ得ば、却つて僵局を破り、意外の財を得ん。

生年の四化を顧みれば、太陽化禄は命宮に、武曲化権は兄弟に、太陰化科は官禄に、天同化忌は夫妻に在る。此限は田宅を行き、恰好田宅宮を枢軸として、本命命宮の太陽化禄と官禄の太陰化科を動かす。太陽の禄は、あなたが生まれ持つ熱忱と指導者の気質、この十年、産を置き、家を安じ、根基を深く耕すことにより、十分に顕現せん。太陰の科は、専門領域における美譽を徐々に積み上げ、声名は穏やかなる実務の成果によつて伝えられん。然れど天同化忌は夫妻に在り、本命の情感の憂いは、此限に在つても事業の忙しさによつて顕わになりやすい。伴侶の心を疎かにして、隙を生じせしめざるを防ぐべし。

此限の前段（35～40歳）、太陰化権が力を発し、事業に於いて実権を多く掌る。宜しく積極的に布石し、産業を購い、団体を築くも、皆、勢いに乗じて為すべし。後段（40～44歳）、貪狼化禄と天機化忌が交錯し、人脈の資源は豊かなれど、精神の圧力は漸く増す。此の時は鋒を収め、前段に拓きし基を守成の固めに転ずべし。心身の健康に多く目を配り、無用の社交を減らすべし。この十年、最も為すべき大事は、紫微・天府の象を以て、一つの「基業」の礎を定むること。有形的な不動産の購入にせよ、無形的な事業体系の構築にせよ、必ず四十歳の前後に、此の根基を落とし定むべし。此の事、成れば、後の数十年、皆、依る所あり。

2026 丙午 虚歳 37・流年命宮在 午

靜心養性，多行善事以化忌星 精進專業技能，借文昌科星之助 把握遠行機遇，拓展財源 忌急躁衝動，防口舌是非 忌感情用事，防桃花劫
忌投機冒進，防破財

流年命宮は午に在り、廉貞・天相を坐す。恰も流年の忌星・廉貞に逢い、又左輔・地空・火星を見る。主として該年は心緒紛擾し、急躁により事を生じ易し。流年の禄星・天同は夫妻宮に入り、本命の天同化忌を引き動かす。感情上は桃花の機遇有りと雖も、亦た溝通の不暢により怨怼を生じ易く、紅鸞・擎羊の衝動を防ぐを要す。事業上は、流年の権星・天机は福德に入り、天魁と同宮し、思慮は轉じて深し、但官禄宮の太陰化科は流年の文昌に引かれ、文星の助力有り、宜しく策划・文書類の工作に従事し、能く賞識を得ん。財帛宮の天梁は旺じ、流年の科星・文昌は遷移に入り、主として遠方の財縁有りと雖も、陀羅・天空は同度し、進財に阻有り、投機に宜しからず。健康上は、疾厄宮の火星・地空、流年の廉貞忌が沖し、需く心血・炎症の疾を防ぎ、宜しく定期検診をせよ。

2027 丁未 虚歳 38・流年命宮在 未

事業上主動爭取，把握太陰化祿之機 注重家庭溝通，平衡工作與感情 穩健理財，避免短期投機 忌口舌是非，外出謹言慎行
忌忽略伴侶感受，致感情生變 忌過度勞累，注意健康保養

2027丁未年、流年命宮は未に在り、即ち本命の財帛宮に当たる。天梁が旺地に守り、天鉞・陀羅が同度す。貴人の助けを得るも、小人の暗算にも要注意。流年化忌の巨門が遷移宮に入り、本命命宮を冲す。外出の際には口舌・是非が生じやすく、言行には慎みを要す。流年化祿の太陰が官禄宮に入り、本命の太陰化科を引き動かす。事業上、名声・地位の向上の機会あり。ただし官禄宮の化忌が夫妻宮に入るため、仕事と家庭のバランスに留意せよ。財帛宮の天梁は旺地に在りて理財は堅実なるも、陀羅は遅延を主るゆえ、投資は長期戦線を旨とすべし。感情面では、流年化権の天同が夫妻宮に入り、本命の天同化忌と相対す。関係には寛容さが肝要なり。健康面では、疾厄宮に廉貞・天相が在り、心血管系および消化器系に留意せよ。

2028 戊申 虚歳 39・流年命宮在 申

善用貴人資源，多與人協作 精進專業技能，以柔克剛 把握合作機遇，見好就收 忌過度思慮，當斷則斷 忌文書疏漏，簽約須細
忌輕信朋友，合夥謹慎

2028戊申年、流年命宮は申に在り、ちょうど本命の子女宮に当たる。七殺は廟旺し、右弼・禄存・天馬・鈴星が同度する。流年の化忌である天機が本命の福德宮に入り、命宮を冲照する。これは思念が乱れやすく、決断を繰り返したり心が落ち着かない兆しであり、考え過ぎによって好機を逃さぬよう注意が必要である。流年の化祿である貪狼が本命の僕役宮に入り、化権の太陰が本命の官禄宮に入り、化科の右弼が本命の夫妻宮に入る。

この年の事業運は、太陰の化権が官禄宮を動かすことで、細やかな才覚を発揮しやすく、企画・調整などの分野で頭角を現すであろう。また女性の助力を得ることもある。ただし官禄宮の己干により文曲が化忌し、流年命宮に入るため、書類や契約のミスに注意し、職場での言動の諍いによる損失を避けるべきである。

財運については、貪狼の化祿が僕役宮に入ることから、副収入や人脈を通じた利益に恵まれる。しかし僕役宮の庚干により貪狼が化忌し、兄弟宮を冲するため、友人や同僚による金銭の損失に警戒し、共同事業や金銭の貸借は明確にしておくべきである。

感情面では、右弼の化科が夫妻宮に入り、良縁を引き寄せやすく、独身者は温和で思いやりのある相手に出会う可能性が高い。ただし本命の夫妻宮で天同が化忌し、流年にも重なるため、過去の恋愛に縛られたり、相手への期待が高すぎて失望することがある。互いに寛容さを持つことが大切である。

健康面では、流年命宮に七殺と鈴星が在り、疾厄宮に火星と地空が在るため、怪我や炎症、突発的な病気に注意が必要である。特に心血管系と肝胆の不調を警戒すべきである。

2029 己酉 虚歳 40 ・ 流年命宮在 酉

借兄弟朋友之力拓展財源

憑專業聲譽或長輩提攜謀事

感情文書宜緩簽細審

忌因口舌是非損及夫妻情分

忌投機豪賭及酒色應酬

忌忽略心腦血管及炎症隱患

2029己酉年、流年命宮は酉宮に落ち、本命夫妻宮に重なる。天同化忌が文曲・擎羊と同度し、流年文曲もまた化忌して沖照する。感情や事業に言い争いやトラブルが生じやすく、契約書類の誤りに注意が必要である。流年武曲化祿が兄弟宮に入り、武曲は本命で化権している。この年は共同経営や投資に有利で、兄弟や友人の助力により財を成すことができる。流年貪狼化権が僕役宮に入り、人脈が広がるが、貪狼は桃花も司るため、酒色による散財を防がねばならない。流年天梁化科が財帛宮に入る。天梁は本来、庇護の意味を持ち、名声・専門性・年長者の引き立てによって利益を得ることを示すが、陀羅が同宮するため、財務上の決断は急がず慎重にすべきである。健康面では、疾厄宮に廉貞天相が火星・地空と会し、流年文曲化忌が沖照するため、心脳血管系や突発的な炎症に注意が必要である。特に夏から秋への変わり目が危険である。この年は総じて吉凶相半ばする。武曲の実直さと天梁の安定を活かし、文曲の忌を和らげることができれば、安泰を得られるであろう。

2030 庚戌 虚歳 41 ・ 流年命宮在 戌

把握事業權柄，深耕專業領域

關注伴侶感受，主動溝通化解

投資不動產，穩健積累財富

忌因公廢私，冷落家庭伴侶

忌衝動決策，引發健康隱患

忌固執己見，激化人際矛盾

2030年庚戌流年、命宮は兄弟宮の丙戌に落ち、武曲が化権して坐守し、生年化権と重なって権星が力を発揮する。事業においては自ら主導権を握り、権勢を掌る象意となる。流年四化は太陽化祿・天同化忌であり、本命の命宮太陽化祿と夫妻宮天同化忌を引き動かし、「祿が命宮に入り、忌が夫妻宮に入る」という呼応を形成する。この年は事業の版図を広げるに吉とし、特に田宅宮・不動産・家族資源の統合において収穫を得やすい。流年命宮と田宅宮の戊寅が暗合を成し、紫微・天府が流年の武曲権星に引き動かされて、財運は安定した成長の機運を示す。しかし流年忌星は夫妻宮を直指し、天同化忌が文曲・擎羊に遇すると、感情面では口論や疎遠が生じやすく、仕事の多忙によってパートナーを疎かにしないよう注意が必要である。また過去の感情問題が再び表面化する恐れもある。健康面では、疾厄宮に火星が廟旺し、流年においては心血管系の疾患や突発的な炎症に留意し、過労を避けるべきである。総じて、この年は事業進取の好機を掴むべきだが、剛を以て柔を制し、家庭と事業のバランスを取ることが肝要であり、そうして初めて化忌を動力に転じ得るのである。

2031 辛亥 虚歳 42 ・ 流年命宮在 亥

宜主動出差拓展人脈

宜借專業名望提升收入

宜緩簽合同多複核文書

忌口舌爭執惹官非

忌感情翻舊賬傷和氣

忌投資急進貪快利

2031年辛亥、流年命宮は亥に入り、恰も本命太陽化祿の宮に当たる。流年太陽化権が引き動かされ、本命太陽の陷地に権を得させ、事業上に局面を破る機運が生じる。特に外へ向かつての発展や、分野を跨いだ開拓に有利である。流年巨門化祿が遷移宮に入り、遷移宮の辛巨門化祿と重なり合う。これは外出時に貴人に遇い、弁舌で財を成すことを主とするが、文昌化忌もまた遷移宮に入り、流年命宮を衝く。文書の過失、契約の紛争、或いは遠行の際に言葉が原因で恨みを買わぬよう、注意を要する。財帛宮の天梁は旺相で、流年文曲化科の引き動かしを受け、専門の聲名によって利を得るに適するが、陀羅が同宮するため、財務上の決断は緩やかにすべきで、急進は忌む。夫妻宮の天同は忌を受け、流年文曲化科が入ることで、感情面では舊事の蒸し返しや、意思疎通の行き違いが生じ易い。柔をもって剛に当たり、多く傾聴することが望ましい。健康面では、疾厄宮の廉貞天相が流年太陽の権に遇い、心血管や頭部の問題を防ぐ必要がある。作息に留意されたい。

2032 壬子 虚歳 43・流年命宮在 子

置產裝修，把握家宅吉運

理財穩健，拓展正財渠道

多與兄弟溝通，化解財務分歧

忌與兄弟合夥投資，防破財

忌口舌爭執，夫妻宜忍讓

忌過度勞累，防突發炎症

命理術語は繁体字中国語で：紫微化權入田宅、武曲化忌冲兄弟、左輔化科入疾厄、天同化忌引動。

干支は日本語の旧暦表記で：癸丑年。

その他の用語は日本語で：流年、夫妻宮、火星廟旺、口舌爭執。

2033 癸丑 虚歳 44・流年命宮在 丑

主動拓展外部合作談判

完善團隊執行監管機制

規劃長遠職業進階路徑

忌因大意輕信合夥承諾

忌因忙碌忽視伴侶情緒

忌熬夜透支心腦血管

癸丑流年命宮落福德宮（己丑），本命天機陷守此宮，得流年太陰化科同宮照拂，主智謀、規劃類事務有序推進。流年破軍化祿入父母宮（戊子），冲動本命破軍廟守父母，長輩貴人、資質平台助力顯著，宜借勢拓展版圖；巨門化權入遷移宮（辛巳）會照命宮（丁亥），外部溝通、談判、跨區域合作掌握主動權，事業層面利主動出擊、品牌推廣。貪狼化忌入僕役宮（庚辰）冲兄弟宮（丙戌），防合夥人、下屬執行偏差、資源外洩或合同糾紛；太陰化科雖吉，但本命官祿宮（己卯）太陰陷化科、夫妻宮（乙酉）天同化忌，感情仍存波折，防因公務奔波冷落伴侶或異性緣糾葛。健康留意疾厄宮（壬午）廉貞天相逢火星、截路，防心腦血管、眼目、失眠隱患。

2034 甲寅 虚歳 45・流年命宮在 寅

善用家宅資源，利置產裝修

借團隊跨界協作，專注創新

多與伴侶傾談，化解心結

忌遠行簽約、口舌招尤

忌投機炒賣、高風險借貸

忌熬夜耗神、舊疾復發

流年命宮在寅的田宅宮に入り、紫微・天府が坐守す。流年命宮の廉貞が化祿して本命の疾厄宮に直射し、その中の廉貞・天相に當たる。三方には更に本命の遷移宮に居る巨門・文昌が見え、主として不動産・家宅の変動、或いは家族資源の整合によって財を得る。然し、流年命宮の太陽が化忌して本命命宮を衝き、遷移宮の巨門と暗に合す。口舌の是非、文書契約の誤りを慎しみ、特に遠行投資を忌むべし。事業に就いては、官祿宮の太陰が化科し、流年命宮の破軍の化權に引き動かされ、跨界整合・副業開拓に利あり。但し変動の中、チーム内の消耗を防ぐべし。財運に就いては、田宅宮の吉化が加持し、不動産取引は期し得るも、偏財は劫煞を防ぐべし。感情に就いては、夫妻宮の天同が化忌し、流年命宮の文昌の化科が拱照す。舊事の攪拌により悶え易く、坦誠なる溝通を宜しとす。健康は肝膽・神経衰弱に注意すべし。火星廟地空同宮に在り、過勞を忌む。

2035 乙卯 虚歳 46 ・ 流年命宮在 卯

把握田宅置業良機

穩健理財重合同細節

主動溝通化解誤會

忌職場文書草率簽約

忌投資高槓桿冒進

忌口舌爭執傷和氣

2035年は乙卯の年、数え年46歳、戊寅の大限（35～44歳）の終わりに差し掛かる。流年の命宮は卯に在り、ちょうど大限の田宅宮に入る。本命の田宅宮に紫微・天府の双帝星が坐し、その格局を引き動かす。流年に化祿する天機が本命の福德宮に入り、化權する天梁が財帛宮に、化科する紫微が田宅宮に、化忌する太陰が官禄宮に臨む（これが流年の四化である）。

この年は家宅の置き換えや不動産の増価に吉とし、紫微の化科が加勢して、不動産や契約に関する手続きは順調に運ぶ。天梁の化權が財帛宮に在り、理財の手腕が冴えるが、陀羅の遅延を防ぎ、機会を逃さぬよう留意すべきである。

事業面では、太陰の化忌が官禄宮を押し、本命の官禄宮に在る太陰が陷地で化科を受ける。職場にて評価の低下や名譽の損傷が生じやすく、書類の不備や同僚との摩擦に注意を要する。特に女性の上司との関係には慎重を期すこと。

感情面では、流年の夫妻宮（本命の子女宮）に旺地の巨門が文昌と会し、流年の太陰化忌が冲す。言葉の行き違いや、離れ離れの時間が長くなることで誤解が生じやすい。こまめなコミュニケーションを心掛けること。

健康面では、流年の疾厄宮（本命の子女宮）に七殺と鈴星が陷地で在り、外傷や突発的な炎症に注意。特に肝臓と膽囊の養生を心掛けること。

建 議

命を知る者は天を怨まず、己を知る者は人を怨まず

人生戦略

閣下の命盤では、太陽化禄が命宮に坐します。陷地にありながらも禄神の加護を受け、生まれながらにして人徳と人縁を備えております。これは「虚にして実あり」の相です。太陽は熱と光を放つ星ですが、陷地にあつては他者の光を借りて自らの事業を成すのが良しとされます。ゆえに人生の第一戦略は「勢いを借りて進む」ことにあります。命宮の丁干により太陰化禄が官禄宮に入り、事業面では女性の助力者に恵まれやすく、あるいは文化・芸術・福祉・医療など人に関わる分野で大成しやすい相です。肝に銘じるべきは、独力で戦わず、人の力を借りることを恐れないこと。また、遷移宮の巨門が旺地にあり化禄を帯びるゆえ、外地での発展、移動を伴う活動が吉と出ます。巨門の弁舌と文昌の文才が相まって、三十五歳以降、田宅宮に大限が入る頃には、不動産や家庭を基盤とした安定した発展が約束されております。

感情戦略

夫妻宮には天同化忌、擎羊が同度します。感情の道には波乱が絶えませんが、これは宿命の凶兆ではなく、むしろ「情という字は、ゆつくりと熟成させるもの」という天の啓示です。天同化忌の人は感受性が鋭く、些細なことで心を痛めがちですが、紅鸞の加護により異性からの縁は絶えることがありません。ただし忌星の影響を軽視せず、感情の大海に溺れぬよう自戒すべきです。第二の戦略は「柔をもって剛を制す」こと。感情のもつれや不安定さを、芸術創作や精神修養のエネルギーへと昇華させるのです。官禄宮の太陰化禄は「月朗天门」の吉格を成し、陷地ながらも化禄の輝きを得ております。裏方の仕事、企画・相談・芸術・心理関連の職務に適し、仕事への没頭が感情のバランスを取り戻す鍵となります。これこそ化忌を化用に転ずる妙法にございます。

財運戦略

財帛宮には天梁が旺地に坐し、天鉞が同度します。財源は主に年長者や有力者の援助、あるいは公的な機関や安定した組織からもたらされます。ただし陀羅が陷地に同宮するため、金銭の流れに遅延や反復が生じやすく、慎重な運用が求められます。第三の戦略は「安定を求めつつ、機を見て変わる」こと。投機的な冒険は厳に慎むべきですが、五十五歳以降、僕役宮に大限が入り、貪狼化権の力を得れば、人脈こそが最大の財産となります。ただし地劫の影響により、友人を介した金銭の貸借には細心の注意を払うこと。若い頃は専門的な技能の習得に励み、中年以降は人望と信用によって財を成すのが、天梁星の「陰徳」の本性に適った道でございます。先に与え、後に得る。この順序を守れば、財運は長く続くであります。

時機の見極め

閣下は決して早熟の器ではなく、太陽が陷地にあるがゆえに、真価が発揮されるのは中年以降となります。命主が巨門、身主が火星という組み合わせは、内に繊細な思慮を秘めつつ、外には行動力と情熱を備えた複雑な性格を示します。三十五歳までは、いわば「磨きの時期」。才能がありながらも世に認められず、焦りや不遇感を抱えがちですが、ここで急いてはなりません。真の開花は四十五歳以降、官禄宮に大限が入り、太陰化禄の力が完全に発揮される時。事業は軌道に乗り、名声も自然と高まります。そして五十五歳から六十四歳にかけては、遷移宮の巨門化禄が最大の輝きを放ち、外地での活躍、あるいは国際的な舞台での成功が約束されております。「辛巳」の大限はまさに絶好の機運。未知の分野への挑戦、異郷での開拓は、思いがけない吉遇をもたらすであります。

総合の言葉

閣下の全命盤を観るに、太陽化禄は陷地にありながらも、雲間から差す曙光の如く、いずれ必ず満天下を照らす時が参ります。天同化忌は夫妻宮にありますが、これは情感の深さの裏返し。「独りの時間もまた円満なり」と悟れば、かえって心の平安を得られるでありません。身宮が夫妻宮にあり、一生の重心は「情」にありますが、この一字を深く理解し尽くせば、それこそが慈悲の心となるのです。命主巨門は弁舌を司り、身主火星は行動を司る。言葉と行動を一致させ、怨みを言葉にせず、行いをもつて心を示すこと。天巫と天厨が命宮を輔佐し、霊性と生活の情趣を兼ね備えた閣下は、俗事に埋もれさせてはなりません。人生は基盤の如し。閣下が持つのは「天梁」の碁、すなわち仁徳を基盤とし、知恵を手段とする戦略でございます。中年を過ぎれば自ずと結果は明らかとなりましょう。太陽の余暉を借りて、自らを照らし、人をも照らす。その時、命の中のすべての忌は、清らかな蓮の花と化すであります。

備 考

言有據，讀之可查

排盤仕様の備考

排盤アルゴリズム 標準
△

四化表 Feixing・Quanji

年界 正月初一

晚子時 翌日（主流）

閏月 月全体を当月とみなす

真太陽時 未補正（北京時間で排盤）

用語小注

三方四正 本宮は対宮および二つの三合宮と合わせて読む。一宮を見るには四箇所星曜を兼ねて観るべし。

大限 十年一限の運勢段階。虚歳により十二宮に配される。

虚歳 生まれを1歳とし、新年ごとに1歳加える伝統的な数え方。

空宮 十四主星のない宮。対宮の主星を借りて読む。

五行局 水二局から土五局まで。大限の起歳と命盤の基調を定める。

Si Hua 化禄・化権・化科・化忌——天干が星曜の気を引き、資源と課題を示す。

流年 当年の運勢。流年の地支を流年命宮として十二宮を再配置する。

廟旺陷 星曜の輝度等級。廟旺は力を得て強く、不陷は力を失い弱い。

命主・身主 命宮の地支と生年の地支により定まる二つの気質主星。

来因宮 生年の干が落ちる宮。人生の核心的テーマの源。

本書は FateZiwei の排盤・撰述システムにより生成・命理内容は文化研究・娯楽目的の参考であり、いかなる意思決定の助言も提供しません

FateZiwei.com・1990-4-12